SONY

3-865-265-**03** (2)

マルチスキャン プロジェクター

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

VPH-G90J

© 1998 by Sony Corporation

安全のために

ソニー製品は安全に充分配慮して設計されています。しかし、電気製品は、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

5～11ページの注意事項をよくお読みください。

定期点検をする

5年に1度は内部の点検をお買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口にご相談ください。(有料)

故障したら使わない

すぐに、お買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口にご連絡ください。

万一、異常が起きたら

- **煙が出たら**
- **異常な音、においがしたら**
- **内部に水、異物が入ったら**
- **製品を落としたりキャビネットを破損したときは**

➡ **❶ 電源を切る。**
❷ 電源コードや接続コードを抜く。
❸ お買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口に連絡する。

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号

行為を禁止する記号

行為を禁止する記号

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会(VCCI)の基準に基づくクラスA情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

目次

⚠警告 5
⚠注意 8
電池についての安全上のご注意 11

概要

本機の特長 12
各部の名称と働き 14
前面 14
後面 16
リモートコマンダー/コントロールパネル 18

投影

スクリーンに画像を映す－投影 22
画質を調整する 25
センタリングを調整する 26
画像の大きさと位置を調整する 28
画面サイズの調整 28
シフト（位置）調整 28
ブランキング調整 29

メニューで行う調整と設定

メニュー操作 30
基本的なメニュー操作 30
メニューモードについて 31
画質調整メニュー 33
画質設定1メニュー 35
画質設定2メニュー 36
信号設定メニュー 37
初期設定1メニュー 39
初期設定2メニュー 40
入力情報メニュー 42
セット情報メニュー 43

（続く）

設置/接続例

設置例 44
設置例1：床置き、フロント投影（平面スクリーン使用時） 45
設置例2：天井つり、フロント投影（平面スクリーン使用時） 46
接続例 47
プロジェクター本体に映像機器を直接接続する 47
複数のプロジェクターを直接接続する 48
シグナルインターフェーススイッチャーPC-3000を使用する 50
システム構成を確認する 51
シグナルインターフェーススイッチャーPC-1271Jを使用する 52
インデックス番号の設定 53

保守・点検・その他

トラブル時の対処 56
本機の性能を保持するために 57
保証書とアフターサービス 58
仕様 59

索引 62

⚠警告 火災 感電

下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けがにつながることがあります。

禁止

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となることがあります。
- 設置時に、製品と壁やラック（棚）などの間に、はさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口に交換をご依頼ください。

禁止

内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

分解禁止

内部を開けない

内部には電圧の高い部分があり、キャビネットを開けたり改造したりすると、火災や感電の原因となることがあります。内部の調整や設定、点検、修理はお買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口にご依頼ください。

強制

本機は日本国内用です

交流100Vでお使いください。
海外などで、異なる電圧で使うと、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

通風口をふさがない

通風口をふさぐと内部に熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。また、手を近づけるとやけどをする場合があります。風通しをよくするために次の項目をお守りください。
- 壁などから通風口を30cm以上離して設置する。
- 密閉された狭い場所に押し込めない。
- 毛足の長い敷物(じゅうたんや布団など)の上に設置しない。
- 布などで包まない。
- 横倒しにしない。

⚠警告

禁止

湿気やほこり、油煙、湯気の多い場所や虫の入りやすい場所、直射日光が当たる場所、熱器具の近くに置かない

火災や感電の原因となることがあります。

注意

開梱・運搬は4人以上で

開梱・運搬は、必ず4人以上で行ってください。3人以下で行うと腰を痛めたり、落として足を痛めたりすることがあります。

禁止

設置・修理は絶対自分でやらない

プロジェクターの設置や修理は必ず、お買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口にご依頼ください。自分で行うと事故につながることがあります。

注意

天吊り使用時、落下に注意する

天吊りで使用の場合、天井の強度が不十分だと、天井ごと落下し、死亡や大けがにつながることがあります。（詳しくは、プロジェクターサスペンションサポートPSS-90の取付説明書をご覧ください。）

禁止

レンズを直接のぞかない

投影中にレンズを直接のぞき込むと目に悪影響を与えるおそれがあります。

注意

CRT割れや放電により大きな音を発することがあります

CRT（ブラウン管）割れが起こったり、放電すると、本体から大きな音がします。心臓の弱い方など、思わぬ事故につながることがありますのでご注意ください。

禁止

スクリーンを長時間継続して見ない

投影画面を長時間継続して見続けると、目が疲れたり、視力が低下するおそれがあります。画面を見続けて体の一部に不快感や痛みを感じたときは、すぐにプロジェクターの使用をやめて休息してください。万一、休息しても不快感や痛みがとれないときは医師の診断を受けてください。

禁止

容量の小さい電源延長コードを使用しない

容量の小さい延長コードを使うと、ショートしたり火災や感電の原因となることがあります。

キャビネットのカバーを開けて使用しない

カバーを開けたまま使用したり、キャビネットをはずして使用すると、感電の原因となることがあります。

ファンを止めて使用しない

電源を入れるとファンが働き、多少音を生じますが、ファンを止めてプロジェクターを使用しないでください。ファンが働かないと、内部の温度が上昇してCRTが破損したり、火災や感電の原因となることがあります。

空調の悪い場所で長時間使用しない

空調の悪い所で長時間使用すると、本体内部の高圧部にほこりがついて火災や感電の原因となることがあります。

内部に金属棒などを入れない

プロジェクターの開口部から内部に細い金属棒などを入れると、感電して死亡につながるおそれがありますので、絶対に入れないでください。

⚠注意 下記の注意を守らないと、
けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

禁止

不安定な場所に設置しない

ぐらついた台の上や傾いたところに設置すると、倒れたり落ちたりしてけがの原因となることがあります。また設置・取り付け場所の強度を充分にお確かめください。

禁止

製品の上に乗らない、重い物を載せない

倒れたり、落ちたり、壊れたりして、けがの原因となることがあります。

注意

移動させるときは電源コード、接続コードを抜く

接続したまま移動させると、コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。

禁止

ぬれた手で電源プラグにさわらない

ぬれた手で電源プラグの抜き差しをすると、感電の原因となることがあります。

禁止

コード類は正しく配置する

電源コードや接続コードを足に引っかけると転倒したり、プロジェクターの落下によりけがの原因となることがあります。十分注意して接続・配置してください。

注意

接続の際は電源を切る

電源を入れたままで電源コードや接続コードを接続すると、感電や故障の原因となることがあります。

注意

指定された電源コード、接続コードを使う

取扱説明書に記されている電源コード、接続コードを使わないと、感電や故障の原因となることがあります。

プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、電源を切って電源プラグを抜く

電源を接続したままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。

注意

定期的に内部の掃除を依頼する

長い間掃除をしないと内部にホコリがたまり、火災や感電の原因となることがあります。1年に1度は、内部の掃除をお買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口にご依頼ください（有料）。
特に、湿気の多くなる梅雨の前に掃除をすると、より効果的です。

運搬・移動時はハンドルを持って慎重に

- 運搬するときは、必ずハンドルを持ってください。他の部分を持つとプロジェクターが壊れたり、落としてけがをすることがあります。また、ハンドルと床や台の間に指を挟まないようにご注意ください。
- 運搬の際は、ドアに指を挟まないようにご注意ください。
- 運搬中にバランスを崩すと落下によりけがの原因となることがあります。
- 床置きのプロジェクターを移動させるとき、本体と設置面との間に指を挟まないようにご注意ください。
- キャビネットを開けたまま、電源を切らずに移動させないでください。感電の原因となることがあります。

調整用工具を無理に回さない

付属の工具でアジャスターを調整するとき、ネジをいっぱいに回しきってそれ以上無理に回そうとするとすると、工具がはずれて手にけがをすることがあります。十分ご注意ください。

CRT液漏れが起きたらすぐに修理を依頼する

CRT（ブラウン管）液漏れが起きると床やじゅうたんなどを汚したり、やけどの原因となることがあります。すぐに電源を切り、電源コードや接続コードを抜いて、お買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口に点検・修理をご依頼ください。

キャビネットとレンズの間に手を入れない

キャビネットとレンズの間に手を入れると抜けなくなるなど、けがの原因となることがあります。

天吊りしてあるプロジェクターにぶらさがらない

天吊りのプロジェクターにぶらさがったりすると、落下してけがの原因となることがあります。

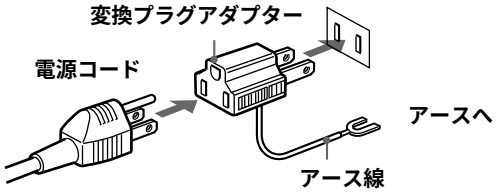
⚠注意

アース線を
接続せよ

安全アースを接続する

安全アースを接続しないと、感電の原因となることがあります。次の方法でアースを接続してください。

- **電源コンセントが3極の場合**
  付属の電源コードを使用することで、安全アースが接続されます。
- **電源コンセントが2極の場合**
  付属の3極→2極の変換プラグアダプターを使用し、変換プラグアダプターから出ている緑色のアースを、建物に備えられているアース端子に接続する。



不明な点はお買い上げ店またはソニー業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

漏液、発熱、発火、破裂などを避けるため、下記のことを必ずお守りください。

⚠警告

- **火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。**
- **充電しない。**
- **指定された種類の電池を使用する。**

⚠注意

- **リモートコマンダーに単3形乾電池を入れるときは、⊖極側から入れる。⊕極側から乱暴に入れようとすると、特にアルカリ乾電池の場合、絶縁被膜が破れてショートすることがあり、液漏れや発熱のおそれがあります。**
- **電池を使い切ったとき、長時間使用しないときは、取り出しておく。**
- **新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。**

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

概要

本機の特長

マルチスキャン機能

15～150kHzの水平走査周波数、38～150Hzの垂直走査周波数と幅広い周波数に対応して入力を自動判別します。高解像度コンピューターやビデオ機器などを接続することができます。

高解像度、高輝度

新開発の9インチ電磁フォーカスCRTや、ハイブリッドHACC（高解像度非球面色収査補正）レンズの搭載、カソード/G1 デュアルドライブ方式の広帯域ビデオアウト回路の採用などにより、解像度2500×2000ドット、輝度350 ANSIルーメンのシャープで明るい高品質な画像を実現しました。

ハイコントラスト

ユニバーサルオプティカルカップリング技術、レンズへのダブルフォーカスシステムと無反射コーティング処理の採用により、画面周辺までハイコントラストできめの細かい、シャープな画像を実現しました。

便利なリモートコマンダー、オンスクリーン表示

付属のリモートコマンダーにより、入力信号の切り換え、画質調整をはじめとする各種調整を離れたところから行うことができます。また、オンスクリーン表示機能を装備しており、画面を見ながら各調整項目を操作できます。さらに、入力信号などの情報を画面に表示して、現在の設定状態を確認することもできます。プロジェクターの前後にリモートコマンダー用の受光部があるので、前後のどちらからでも調整することができます。また、プロジエクター本体に接続して、ワイヤードリモートコマンダーとしても使用することができます。

各種カラー方式に対応

自動切り換えでNTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43[1)]、PAL‐Mの5つのカラー方式に対応します。

自由度の高い設置方法

投影サイズは90～300インチ(120インチ標準)に対応しています。フロント投影、リア投影、および、天吊り、床置きなど設置場所の広さ、明るさ、使用目的などに応じて、設置方法が自由に選べます。

照明つきのコントロールパネル

リモートコマンダーおよび本体のコントロールパネルのLIGHTボタンを押すと、ボタン名が点灯します。暗い場所で操作するときに便利です。

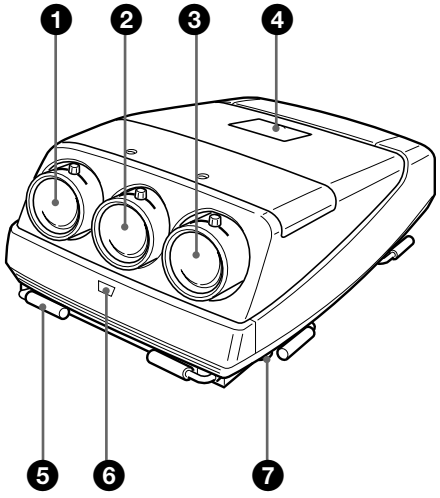
DRC（デジタル・リアリティー・クリエーション）回路内蔵

DRCは、NTSC映像を4倍密の高精細画像にするソニー独自の倍速処理技術です。
デジタルマッピング処理により、通常のNTSC方式の信号（走査線525本）を高精細信号（走査線1050本）につくり変えます。これにより、従来の倍速処理に比べ、動画部のブレが少ないリアルな映像が再現できます。

1) NTSC4.43とは、NTSC方式で録画されたビデオカセットを、NTSC4.43方式のビデオデッキで再生したときのカラー方式です。

各部の名称と働き

前面



❶ 青レンズ

❷ 緑レンズ

❸ 赤レンズ

❹ コントロールパネルカバー

カバーをあけると内部にコントロールキーがあります。

◆コントロールキーの配置と機能は、付属のリモートコマンダーと同じです。詳しくは、「リモートコマンダー/コントロールパネル」(18ページ)をご覧ください。

❺ ハンドル

プロジェクターを持ち運ぶとき使用します。前後左右にハンドルがあります。

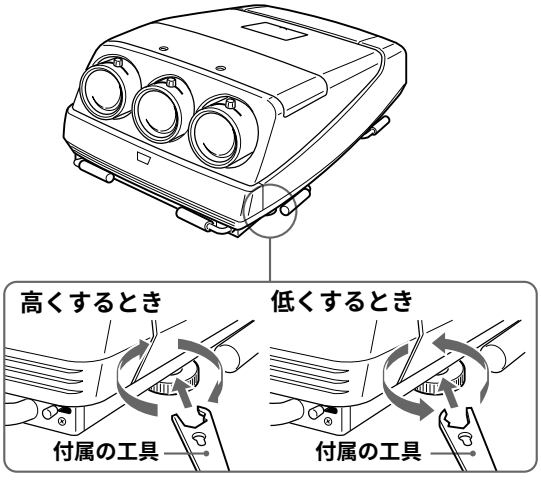
❻ 前面リモコン受光部

❼ アジャスター

プロジェクターを設置する場所が水平でない場合、プロジェクターが水平になるように調整します。

アジャスターの使いかた

プロジェクターが水平になるように、付属の工具を使ってアジャスターを回して調整してください。



ご注意

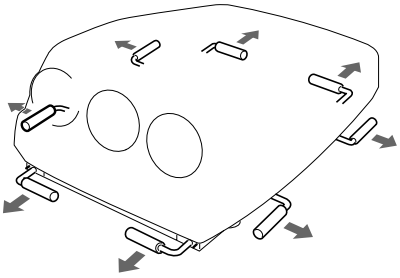
付属の工具は、セットする方向によって、ネジを回す方向が一方向に限定されます。逆方向に回すときは工具を裏側にしてセットしなおしてください。

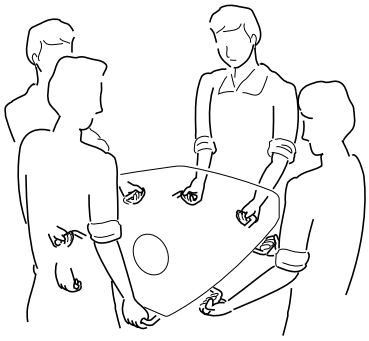
⚠警告

ネジをいっぱいに回しきったとき、それ以上無理に回そうとすると、工具がはずれて手にけがをすることがあります。ご注意ください。

ハンドルの使いかた

前後または左右のハンドルを引き出します。



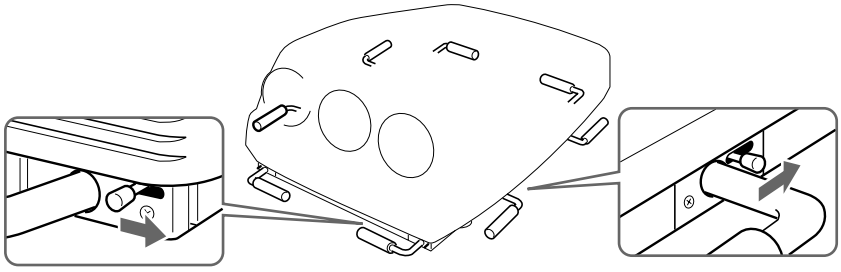


ご注意

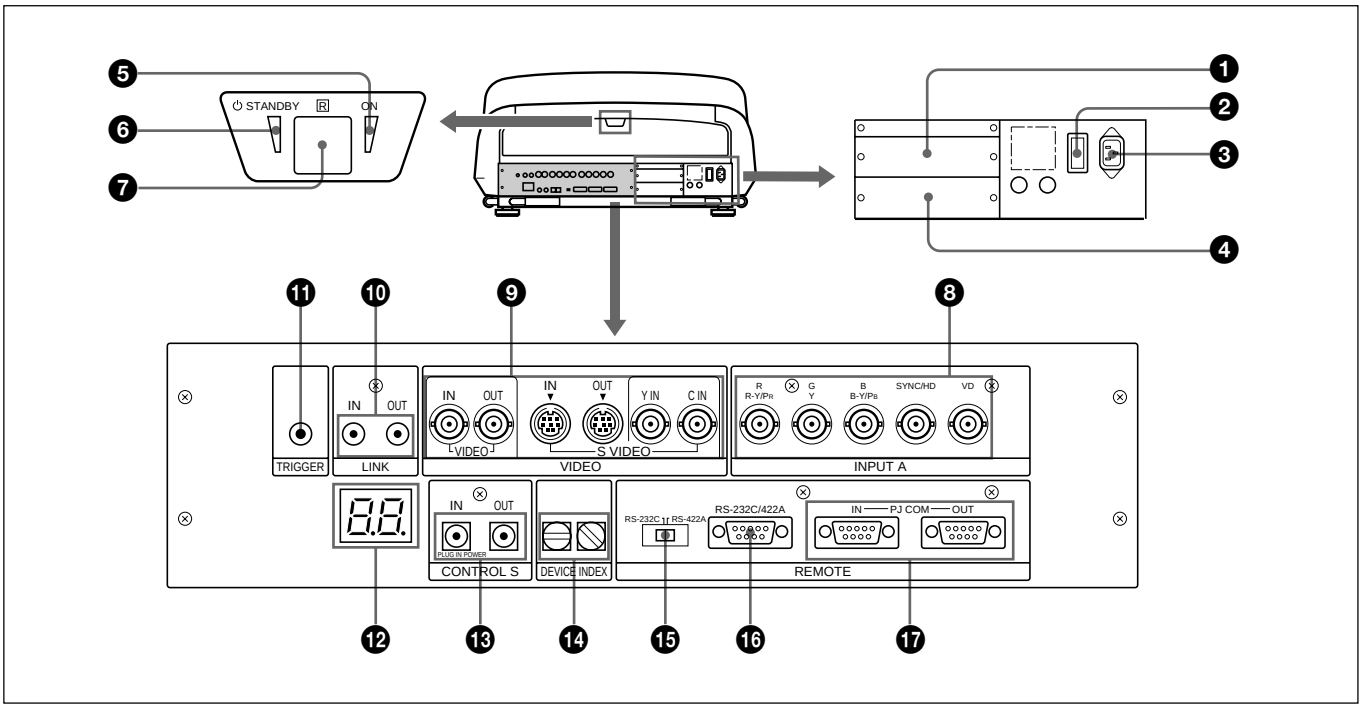
開梱・運搬は、必ず4人以上で行ってください。3人以下で行うと腰を痛めたり、落として足を痛めたりすることがあります。

ハンドルのしまいかた

各ハンドルの根元にあるリリースレバーを押すと、ハンドルが自動的に収納されます。



後面



❶ INPUT B（入力B）基板取り付け部
用途に応じて、別売りのシグナルインターフェースボードIFB-12/12A、IFB-40などを取り付けることができます。
IFB-12/12Aを取り付けたとき、IFB-12/12Aを出力モードに設定して、INPUT Aの信号を出力することができます。

❷ MAIN POWER（主電源）スイッチ

❸ AC IN（電源）コンセント
付属の電源コードを接続します。

❹ INPUT C（入力C）基板取り付け部
用途に応じて、別売りのシグナルインターフェースボードを取り付けることができます。

ご注意

- IFB-40はINPUT Cに装着できません。
- IFB-12/12AをINPUT Cに装着すると、IFB-12/12Aの端子を出力モードに設定できません。

❺ ON（電源入）インジケーター
電源が入るとインジケーターが緑色に点灯します。

❻ ⏻STANDBY（スタンバイ）インジケーター
本体のMAIN POWERスイッチを入れるとオレンジ色に点灯します（スタンバイ）。この状態でリモートコマンダーを使って電源をON/OFFすることができます。

❼ 後面リモコン受光部

❽ INPUT A（入力A）端子（BNC型）
R/R-Y/P_R端子、G/Y端子、B/B-Y/P_B端子、SYNC/HD、VD端子：コンピューターやビデオカメラの出力端子に接続します。接続機器に応じ、RGB信号(R、G、B)、コンポーネント信号(R-Y、Y、B-Y)、ハイビジョン信号（HDTV P_R、Y、P_B)を入力することができます。

❾ VIDEO（ビデオ）端子
VIDEO IN（映像入力）端子（BNC型）：ビデオデッキなどのコンポジット映像出力端子と接続します。
VIDEO OUT（映像出力）端子（BNC型）：カラーモニターのコンポジット映像入力端子と接続します。VIDEO IN端子に入力された信号をループスルー出力します。
S VIDEO IN（S映像入力）端子（4ピンミニDIN）：ビデオデッキなどのS映像出力端子とつなぎます。

S VIDEO OUT（S映像出力）端子（4ピンミニDIN）：ビデオデッキなどのS映像入力端子とつなぎます。Y IN/C IN端子またはS VIDEO IN端子に入力された信号をループスルー出力します。

Y IN（Y入力）端子、C IN（C入力）端子（BNC型）：ビデオデッキなどのY 映像出力端子、C 映像出力端子とつなぎます。

ご注意

Y IN/C IN端子にケーブルが接続されているとS VIDEO IN端子は働きません。

❿ LINK IN/OUT（リンク入力/出力）端子（ステレオミニジャック）

複数のプロジェクターを接続するとき、本機のLINK OUT 端子と他のプロジェクターのLINK IN端子を接続します。これで本機のABLリンク機能とオート画シフトリンク機能を使うことができます。

⓫ TRIGGER（トリガー）端子（ミニジャック）

プロジェクターの電源を入れると12V、電源を切ると0Vのトリガー信号が外部機器に出力されます。（この端子から外部機器に電源供給はできません。）

⓬ LED表示部

自己診断の結果やPJ COMの通信状態などを、2桁の数字とA～Fのアルファベットを使って表示します。

自己診断の結果は赤またはオレンジで、警告や通信状態は緑で表示されます。

⓭ CONTROL S（コントロールS）端子

IN/PLUG IN POWER（入力/プラグインパワー）端子（ステレオミニジャック）：ソニー製品のコントロールS出力端子と接続します。

付属のリモートコマンダーのCONTROL S OUT端子とこの端子を付属のリモコンケーブル（ステレオケーブル）で接続すると、ワイヤードコマンダーとして使用することができます。この場合、リモートコマンダーの電源がこの端子から供給され、電池の消耗を防ぐことができます。

OUT（出力）端子（ステレオミニジャック）：ソニー製品のコントロールS入力端子と接続します。

ご注意

CONTROL S IN端子にリモコンケーブルなどを接続すると、本機のリモコン受光部は働かなくなります。

⓮ DEVICE INDEX（デバイスインデックス番号）スイッチ

複数のプロジェクターを接続するとき、このスイッチを使って各プロジェクターのデバイスインデックス番号を設定します。

設定したデバイスインデックス番号を画面に表示するには、リモートコマンダーのNORMALキーを押してからENTERキーを押します。

ご注意

デバイスインデックス番号は「00」に設定しないでください。「00」にするとリモートコマンダーからプロジェクターを動作させることができなくなります。また、本機のコントロールパネルのキーからは本機のみが動作し、接続されている他機は動作しません。

⓯ RS-232C/RS-422A切り換えスイッチ

RS-232C/422A端子の働きを切り換えます。

⓰ RS-232C/422A REMOTE（リモート）端子（D-sub 9ピン）

RS-232CまたはRS-422Aインターフェースを使ってシステムを拡張するときに使います。

⓱ PJ COM IN/OUT（プロジェクターコミュニケーション入/出力）端子（D-sub 9ピン）

RS-485規格に準拠したソニーのプロジェクター専用のシステム拡張用端子です。

シグナルインターフェーススイッチャーPC-3000のPJ COMシステムと接続するときやオート画シフトリンク機能を使うときにこの端子をに使います。

IN端子だけにケーブルを接続したときは、OUT端子に付属のターミネーターを取り付けてください。

複数のプロジェクターを接続するときは、IN端子とOUT端子をカスケード接続し、最後のプロジェクターのOUT端子に付属のターミネーターを取り付けてください。

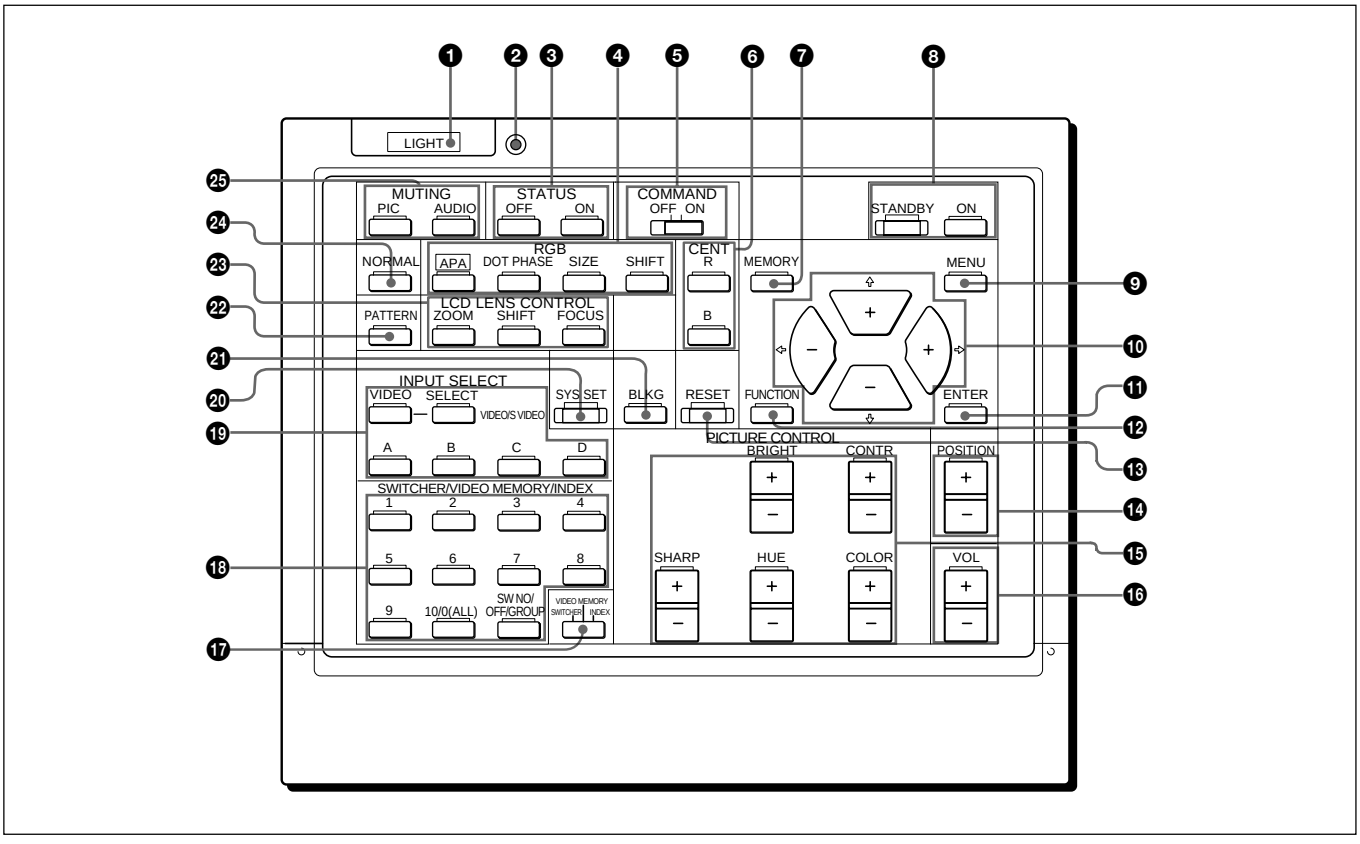
◆ この端子について詳しくは、ソニーのプロジェクター用プロトコルマニュアルをご覧ください。

リモートコマンダー/コントロールパネル

付属のリモートコマンダーと本体のコントロールパネルは、キーの配列と機能が同じです。（発信確認用ランプとCOMMAND ON/OFFスイッチはリモートコマンダーのみにあります。）
リモートコマンダーは、ワイヤード、ワイヤレスのどちらの方法でも使用することができます。

ご注意

- RGB APA/DOT PHASEキー❹、VOL＋/－キー⓰、INPUT SELECT Dキー⓳、LCD LENS CONTROLキー㉓、AUDIO MUTINGキー㉕は本機では働きません。
- RGB SIZE/SHIFTキー❹、CENT R/Bキー❻、BLKGキー㉑はプロユーザーモードのときのみ働きます。
- コントロールパネルのキーは基本的に自機のみを動作させます。ただし、複数のプロジェクターが接続されているときSYS SETキーとSWITCHER切り換えのコマンドのみPJ COM端子を通じて他のプロジェクターに伝えられます。



❶ LIGHT（ライト）ボタン

COMMANDスイッチ❺がONのとき、このボタンを押すとキーの名称表示が照明されます。COMMANDスイッチ❺がOFFのときは、COMMANDスイッチのみが照明されます。
もう一度LIGHTボタンを押すと消灯します。
また、照明中にキーを30秒以上操作しないと、自動的に消灯します。
プロジェクターとリモコンケーブルで接続しているときは、プロジェクターのCONTROL S IN/PLUG IN POWER端子からリモートコマンダー用の電源が供給されます。

❷ 発信確認用ランプ（リモートコマンダーのみ）

キーを押すたびにランプが光ります。ランプが光らないときは、電池を新しいものと取り換えてください。

❸ STATUS ON/OFF（画面表示切り換え）キー

ON： 画面表示を出すときに押します。
OFF： 画面表示を出したくないときに押します。

ご注意

OFFキーを押しても、メニュー画面と警告メッセージは表示されます。

❹ RGBキー
画面を調整します。
APA：本機では使用しません。
DOT PHASE：本機では使用しません。
SIZE：プロユーザーモードのとき、このキーを押してから、矢印キーで入力信号の画面の大きさを調整します。このキーを押すたびに精調モードと粗調モードが切り換わります。
←：左右に狭まる
→：左右に広がる
↑：上下に広がる
↓：上下に狭まる
SHIFT：プロユーザーモードのとき、このキーを押してから、矢印キーで入力信号の画面の位置を調整します。それぞれの矢印キーの矢印の方向に画面が移動します。このキーを押すたびに精調モードと粗調モードが切り換わります。

❺ COMMAND ON/OFF（コマンド入/切）スイッチ（リモートコマンダーのみ）
このスイッチをOFFにすると、LIGHTボタン❶以外のリモートコマンダーのキーがすべて働かなくなります。使わないときにOFFにしておくと、誤ってボタンを押したときなどに電池の消耗を防ぐことができます。

❻ CENT R/B（センタリング調整赤/青）キー
プロユーザーモードのとき、赤色と青色のセンタリングを調整します。
R：赤色調整用のテストパターンがスクリーンに出ます。
B：青色調整用のテストパターンがスクリーンに出ます。
テストパターンを出した後に、矢印キーで調整します。

❼ MEMORY（データ記憶）キー
調整したデータを記憶します。

❽ ON/STANDBY（電源入/スタンバイ）キー
プロジェクター本体のMAIN POWERスイッチが入っているときに、電源を入 / 切します。

❾ MENU（メニュー）キー
メインメニューを画面に表示したり、メニュー画面から抜けるときに押します。

❿ 矢印キー
メニューの項目を選んだり、数値を変えるときに使います。

⓫ ENTER（確定）キー
メニューの設定項目を確定するときやインデックス番号を表示させたり設定するときに押します。

⓬ FUNCTION（ファンクション）キー
拡張機能を使うときに押します。

⓭ RESET（リセット）キー
調整値をファクトリーデータリセット状態、またはサービスデータリセット状態に戻すときに押します。

⓮ POSITION +/−（位置調整）キー
フォーカス調整、レジストレーション調整、およびブランキング調整のとき、画面上の調整位置を選びます。
RGBやHDTV信号の画面位置調整のとき、「V シフト」を「ワイド」か「ナロー」に切り換えます。

⓯ PICTURE CONTROL（画質調整）キー
画質を調整します。
CONTR（コントラスト）、BRIGHT（明るさ）、COLOR（色の濃さ）、HUE（色合い）、SHARP（シャープネス）

⓰ VOL +/−（音量）キー
本機では使用しません。

⓱ SWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEX（スイッチャー/ビデオメモリー/インデックス）切り換えスイッチ
SWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEXキーの機能を切り換えます。
SWITCHER：シグナルインターフェーススイッチャーPC-3000やPC-1271Jの入力切り換えに使用するとき
VIDEO MEMORY：あらかじめ設定・調整されたビデオメモリーのデータを選ぶとき
INDEX：インデックス番号が設定されている複数のプロジェクターの中から、特定のプロジェクターを選ぶとき

⓲ SWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEX（スイッチャー/ビデオメモリー/インデックス）キー
SWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEX切り換えスイッチをSWITCHERに設定したとき
シグナルインターフェーススイッチャーPC-3000やPC-1271Jを接続しているときに、入力の番号を選びます。番号キー9および10/0(ALL)キーは動作しません。
複数のスイッチャーを接続しているとき、入力を選ぶには、キーをSWITCHERに切り換えたあと、SW NO/OFF/GROUPキーを押します。次に、スイッチャー番号（1〜8）を押し、続いて入力番号（1〜8）を押します。1つめのキーを押してから2秒以内に次のキーを押してください。

（続く）

例：スイッチャー番号2、入力4番の信号を選ぶとき
SW NO → 2 → 4と押します。

SWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEX切り換えスイッチをVIDEO MEMORYに設定したとき
ビデオメモリーの番号を選びます。
入力メモリーで設定・調整されたデータを呼び出したい場合には、SW NO/OFF/GROUPキーを押して、VIDEO MEMORYをOFFに設定してください。

ご注意

SWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEX切り換えスイッチをVIDEO MEMORYに設定したときだけ、10/0(ALL)キーは「10」キーとして働きます。

SWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEX切り換えスイッチをINDEXに設定したとき
複数のプロジェクターをつないでいるとき、デバイスインデックス番号を指定して、調整したいプロジェクターを選びます。
デバイスインデックス番号(1～99)を押したあと、ENTERキーを押します。1つめのキーを押してから2秒以内に次のキーを押してください。
例：1を選ぶとき
0 → 1 → ENTER、または1 → ENTERと押します。
12を選ぶとき
1 → 2 → ENTERと押します。
全部のプロジェクターを同時に調整するときは、10/0(ALL)を押してからENTERキーを押します。

ご注意

プロジェクターの機種によっては、0 → 0 → ENTERと押しても動作しません。

複数のグループが設定されているときに、調整したいプロジェクターを選ぶには
まずグループインデックスを指定してから、プロジェクターのデバイスインデックス番号を選びます。グループインデックスを指定するには、SW NO/OFF/GROUPキーを押したあとに、グループインデックス番号（1～99）を押し、ENTERキーを押します。グループインデックス番号が2桁のときは、1つの数字の前に1回ずつ、GROUPキーを押してください。その後、デバイスインデックス番号（1～99）を押し、ENTERキーを押します。
例：グループインデックス番号91、デバイスインデックス番号52のプロジェクターを選ぶとき
GROUP → 9 → GROUP → 1 → ENTER → 5 → 2 → ENTERと押します。

⓳ INPUT SELECT（入力選択）キー
スクリーンに映したい入力信号を選択します。
VIDEO（ビデオ）：VIDEO IN端子またはS VIDEO IN（またはY IN/C IN）端子に接続した機器からの信号
SELECT VIDEO/S VIDEO（ビデオ/Sビデオ選択）：VIDEOキーを押してからこのキーを押すと、押すたびにVIDEO IN端子に接続した機器から信号とS VIDEO IN（またはY IN/C IN）端子に接続した機器からの信号を切り換えます。
A（入力A）：INPUT A端子に接続した機器からのRGB信号、コンポーネント信号またはハイビジョン信号
B（入力B）：INPUT BにIFB-40以外の別売りのインターフェースボードを装着したとき
C（入力C）：INPUT Cに別売りのインターフェースボードを装着したとき
D（入力D）：本機では使用しません。

ご注意

入力A、入力B、入力CからS VIDEO IN（またはY IN/C IN）に切り換えるときは、初めにVIDEOキーを押してから、SELECT VIDEO/S VIDEOキーを押してください。

⓴ SYS SET（システム設定）キー
シグナルインターフェーススイッチャーPC-3000を使ってシステムを構成したときに押します。押すと、システムの状態やインターフェースボードの設定などを把握することができます。

㉑ BLKG（ブランキング調整）キー
プロユーザーモードのとき、このキーを押してから矢印キーでブランキングを調整します。
◆ 詳しくは、「ブランキング調整」（29ページ）をご覧ください。

㉒ PATTERN（テストパターン表示）キー
内蔵信号のテストパターンを表示させるときに押します。キーを押すごとに切り換わります。

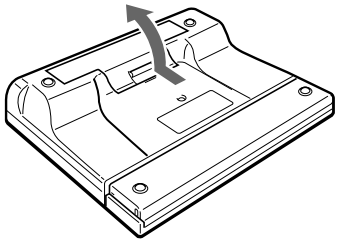
㉓ LCD LENS CONTROL（LCDレンズコントロール）キー
本機では使用しません。

㉔ NORMAL（ノーマル）キー
テストパターンを消すとき、または各調整モードから抜けるときに押します。

㉕ MUTING（ミューティング）キー
PIC（画像）：画像を消したいときに押します。画像を出すには、もう一度このキーを押します。
AUDIO（音声）：本機では使用しません。

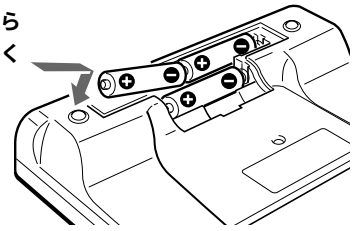
リモートコマンダーに電池を入れる

1 ふたを外す。

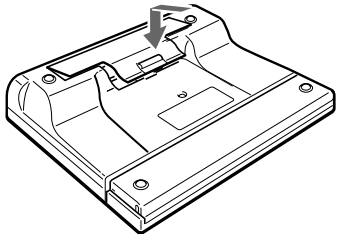


2 ⊕と⊖の方向を確認して単3形（R6）乾電池3個（付属）を入れる。

必ず⊖極側から電池を入れてください。



3 ふたを閉める。



乾電池についてのご注意

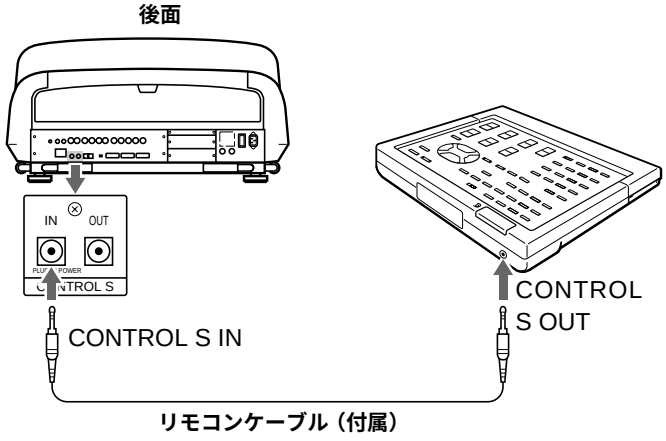
⚠警告 ⚠注意

11ページの「電池についての安全上のご注意」をよくお読みください。

ワイヤレスコマンダーとして使用する場合のご注意

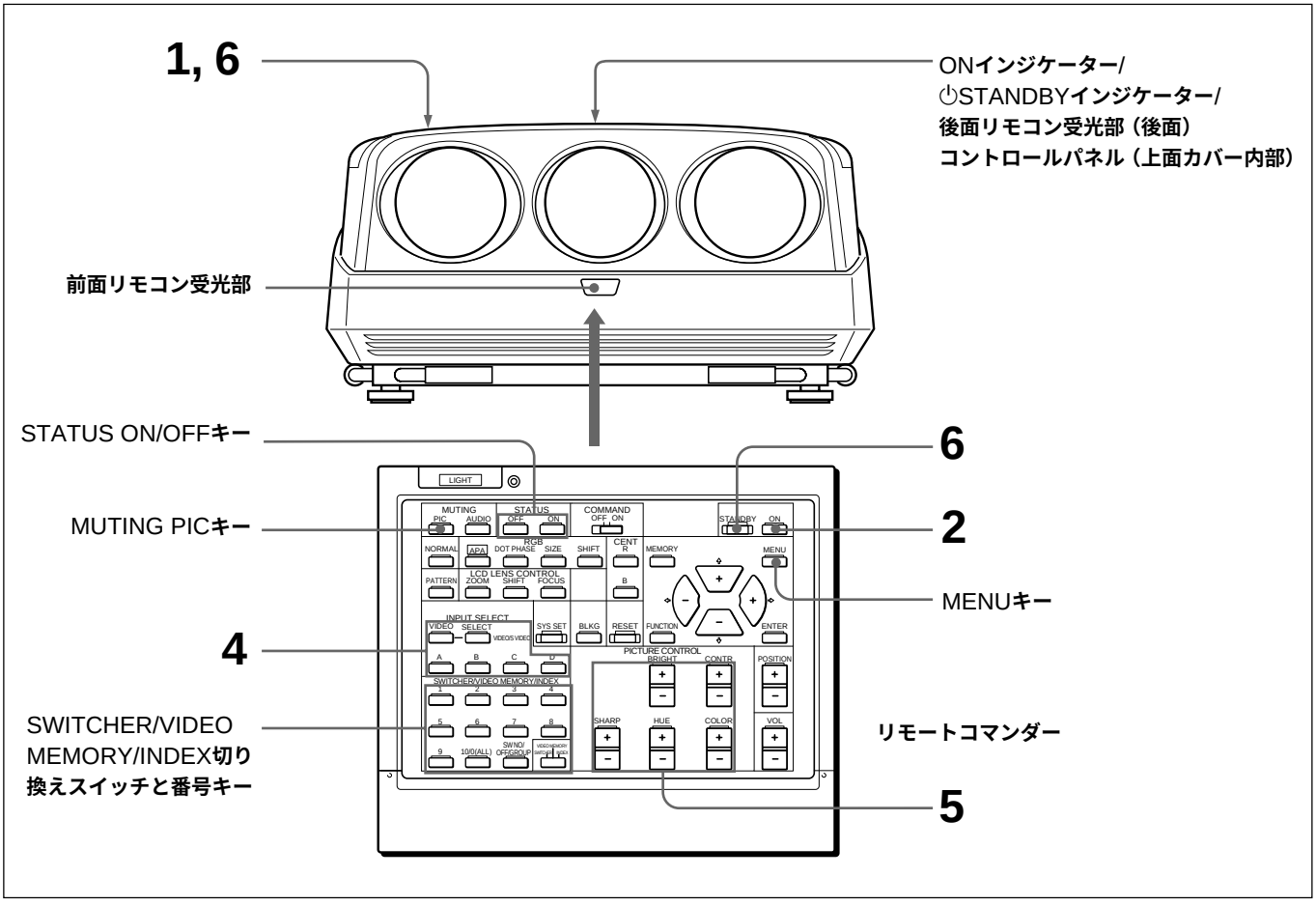
- リモートコマンダーと本体のリモコン受光部の間に障害物があると、操作できないことがあります。
- リモートコマンダーで操作できる範囲は限られています。本体に近いほど、操作が可能な角度が広がります。
- 本体にリモコンケーブルを接続した場合、本体のリモコン受光部は機能しません。ワイヤレスリモートコマンダーとしてご使用になるときは、必ず本体とコマンダーの端子からリモコンケーブルを抜いてください。

リモートコマンダーをプロジェクターに接続する



投影

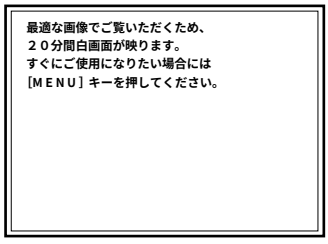
スクリーンに画像を映す－投影



1 **本体後面のMAIN POWERスイッチをONにする。**
⏻STANDBYインジケーターがオレンジ色に点灯し、スタンバイ状態になります。

2 **リモートコマンダーまたはコントロールパネルのONキーを押して、電源を入れる。**
ONインジケーターが緑色に点灯します。

ウォーミングアップ画面（白い画像と下記のメッセージ）が現われます。安定した美しい画面をご覧いただくため、電源を入れたときは、必ず約20分間の自動ウォーミングアップを行ってください。
メッセージは約35秒後にいったん消え、以後30秒間隔で5秒ずつ表示されます。



調整終了直後などウォーミングアップの必要がないときに、すぐに入力画像を見たいときは、MENUキーを押してください。

3 **接続機器の電源を入れる。**

4 **INPUT SELECTキーで投影したい入力信号を選択する。**
VIDEOとSELECTキー：**VIDEO IN端子またはS VIDEO IN（またはY IN/C IN）端子に接続した機器からの信号を入力するとき。VIDEOキーを押してから、SELECTキーを押してVIDEO IN端子またはS VIDEO IN（またはY IN/C IN）端子を選びます。**
Aキー：**INPUT A端子に接続した機器からのRGB信号、コンポーネント信号またはハイビジョン信号。**
Bキー：**INPUT Bに装着したIFB-40以外の別売りのインターフェースボードに接続した機器からの信号。**
Cキー：**INPUT Cに装着した別売りのインターフェースボードに接続した機器からの信号。**
シグナルインターフェーススイッチャーPC-3000または**PC-1271Jを接続しているときは：リモートコマンダーまたはコントロールパネルのSWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEX切り換えスイッチをSWITCHER側にして、番号キー1～8を押します。**

ご注意

INPUT A、INPUT BまたはINPUT Cに接続した信号を選択する場合は、初期設定1メニューの「入力A」、「入力B」または「入力C」で信号の種類を正しく設定してください。初期設定1メニューの設定が違っていると、映像が乱れることがあります。
◆詳しくは、「初期設定1メニュー」（39ページ）をご覧ください。

5 **画質を調整する。**
◆詳しくは、「画質を調整する」（25ページ）をご覧ください。

（続く）

6 **電源を切るときは、リモートコマンダーまたはコントロールパネルのSTANDBYキーを押してから、プロジェクター本体のMAIN POWERスイッチをOFFにする。**

こんなときは	操作
画面表示が出ないようにする	STATUS OFFキーを押す。 画面表示がオフの状態でもメニュー画面と警告メッセージは表示されます。 再び画面表示を出すときは、STATUS ONキーを押します。
映像だけ消す	MUTING PICキーを押す。 再び画像を出すときは、MUTING PICキーを押します。

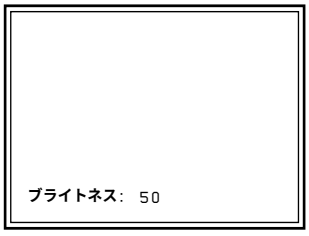
画質を調整する

投影した画像を好みの画質に調整します。調整値を記憶しておくこともできます。

1 PICTURE CONTROLキーの各＋/－キーを押して調整する。

キー	調整項目
BRIGHT	ブライトネス（明るさ）
CONTR	コントラスト
COLOR	色の濃さ
HUE	色合い
SHARP	シャープネス

調整値は、MIN、1、2...98、99、MAXで表示されます。



2 調整が終了したら、MEMORYキーを押す。
調整値が記憶されます。

メニュー画面を使って画質調整をするには
画質調整メニューのコントラスト、ブライトネス、色の濃さ、色あい、シャープネスを調整します。
◆ 詳しくは、「画質調整メニュー」（33ページ）をご覧ください。

標準の画質に戻すには

1 標準値に戻したい項目のPICTURE CONTROLキーを押す。

2 RESETキーを押す。
選ばれている項目だけが標準値に戻ります。

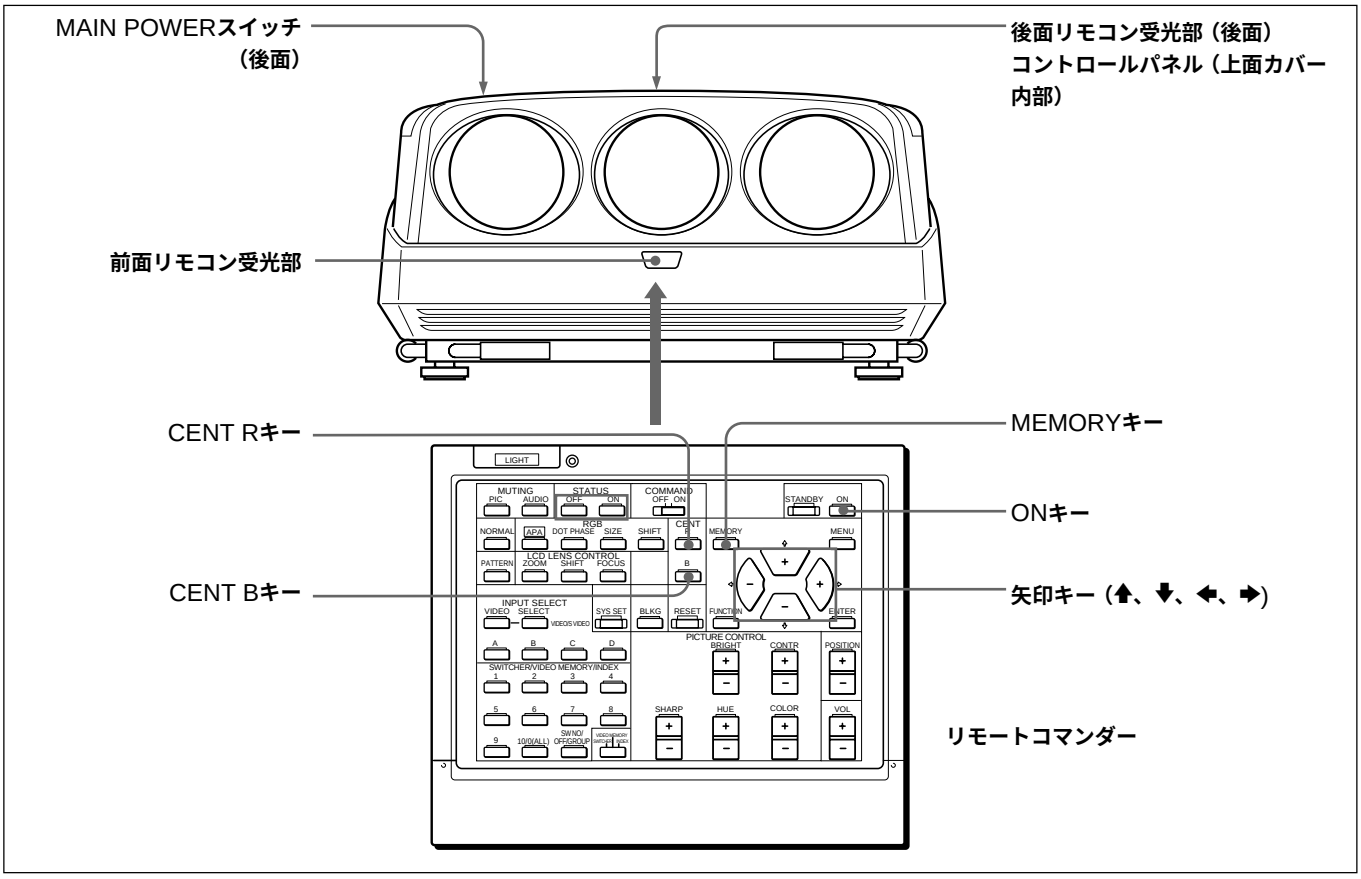
ご注意

- 入力信号がRGBの場合、「COLOR」、「HUE」、「SHARP」を調整することはできません。
- 入力信号が白黒の場合、「COLOR」と「HUE」を調整することはできません。
- PALまたはSECAM方式の入力信号の場合、「HUE」を調整することはできません。

センタリングを調整する [プロユーザーモード]

プロユーザーモードのとき、緑のセンターに、赤と青の線を合わせます。
通常は必要ありませんが、レジストレーションがずれてしまった場合は、センタリングを調整し直してください。

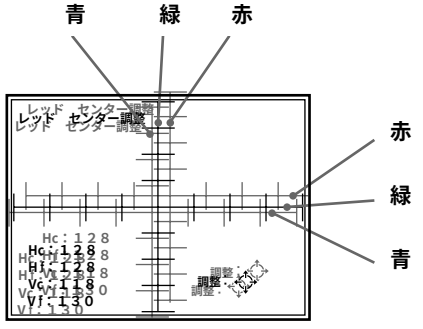
レジストレーション調整とは
プロジェクターは、3本のレンズ（光の3原色）からスクリーンに画像を映しだす仕組みになっています。これら3原色を正しく重ね合わせ、美しいカラー画像を映し出せるようにすることを言います。



1 **本体のMAIN POWERスイッチを入れてから、リモートコマンダーまたは本体のコントロールパネルのONキーを押して電源を入れる。**

2 **プロジェクターをプロユーザーモードにする。**
◆ 詳しくは、「プロユーザーモード」（32ページ）をご覧ください。

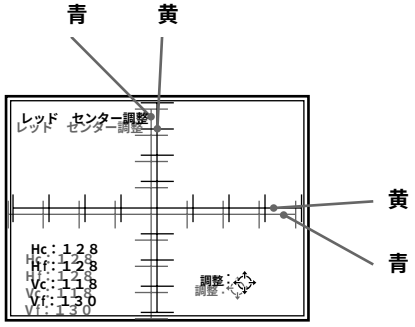
3 **CENT Rキーを押す。**
内蔵のテストパターンがスクリーンに映り、赤の線が調整できる状態になります。



（3色がずれている状態）

4 **↑、↓、←、→キーを押して、調整する。**

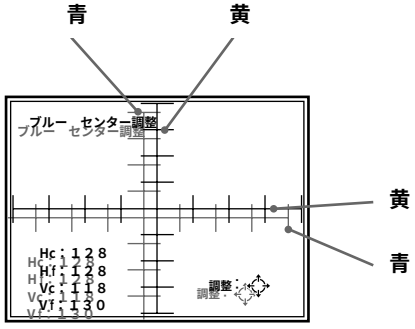
テストパターンの中央を見て、赤の線が緑の線に重なって、黄色に見えるように調整します。線はキーの矢印と同じ方向に動きます。



（緑と赤が重なった状態）

5 **CENT Bキーを押す。**

青の線が調整できる状態になります。



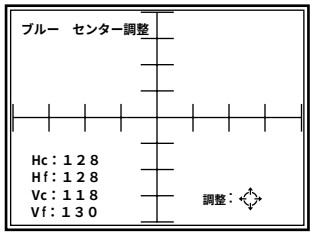
（青のみがずれている状態）

6 **↑、↓、←、→キーを押して、調整する。**

テストパターンの中央を見て、青が黄色の線に重なるように調整します。

線はキーの矢印と同じ方向に動きます。

赤、緑、青の3色が重なると、線は白く見えます。



（3色が重なった状態）

7 **MEMORYキーを押す。**

通常の画面に戻ります。

画像の大きさと位置を調整する [プロユーザーモード]

プロユーザーモードのとき、入力信号の画面の大きさや位置がスクリーンに合うように調整することができます。

ご注意

スイッチャーなどを使って入力信号を2系統以上接続した場合は、入力端子ごとに画面サイズ、シフト、ブランキングの調整が必要です。入力情報メニューで入力信号の情報を確認してください。

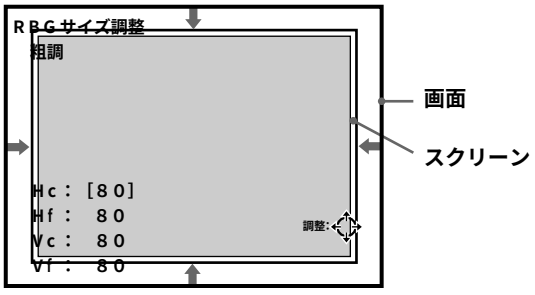
画面サイズの調整

画面の大きさがスクリーンに合っていないときに調整します。

1 RGB SIZEキーを押す。
（RGB信号以外もRGB SIZEキーで調整します。）

2 ↑、↓、←、→キーを押して、画面サイズを調整する。

↑：上下に広がる。
↓：上下に狭まる。
→：左右に広がる。
←：左右に狭まる。



微調整するときには、RGB SIZEキーをもう1回押します。「精調」モードになり、微調整ができます。もう1回RGB SIZEキーを押すと「粗調」モードに戻ります。

3 調整が終了したら、MEMORYキーを押す。
調整値が記憶されます。

標準のサイズに戻すには
ビデオ信号の場合、RGB SIZE調整モードのときRESETキーを押すと、標準値に戻ります。
（ビデオ信号以外はリセットできません。）

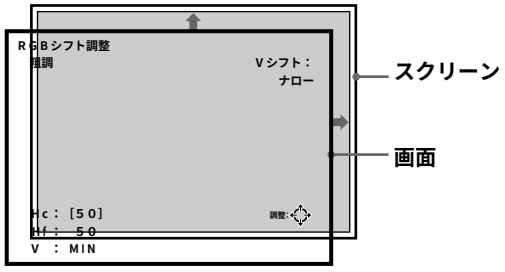
シフト（位置）調整

画面の位置がスクリーンに合っていないときに調整します。

1 RGB SHIFTキーを押す。
（RGB信号以外もRGB SHIFTキーで調整します。）

2 **↑、↓、←、→キーを押して、画面の位置を調整する。**

↑：画面全体が上へ移動する。
↓：画面全体が下へ移動する。
←：画面全体が左へ移動する。
→：画面全体が右へ移動する。



微調整するときには、RGB SHIFTキーをもう1回押します。「精調」モードになり、左右方向の位置のみ微調整ができます。もう1回RGB SHIFTキーを押すと「粗調」モードに戻ります。

ご注意

- **RGBまたはHDTV信号入力時は、POSITION＋/－キーを押すと、上下方向の可変範囲（Vシフト）を「ワイド」と「ナロー」に切り換えることができます。**
- **ビデオ、Sビデオ、コンポーネント、SDI 4 : 2 : 2 信号入力時は、「Vシフト」が「ナロー」に固定され、上下方向の可変範囲がRGBやHDTV信号の場合より狭くなります。**

3 **調整が終了したら、MEMORYキーを押す。**
調整値が記憶されます。

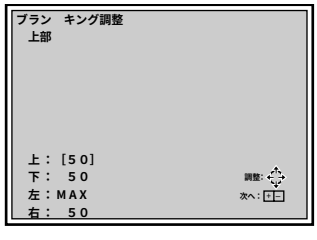
標準の位置に戻すには
ビデオ信号の場合、RGB SHIFT調整モードでRESETキーを押すと、標準値に戻ります。（ビデオ信号以外はリセットできません。）

ブランキング調整

入力信号の画像がスクリーンからはみ出す場合、余分な部分をカットします。

1 **BLKGキーを押す。**

2 **POSITION＋/－キーで調整したい部分を選択する。**
＋キーを押すたびに、「上部」→「下部」→「左部」→「右部」→「上部」…の順に変わります。－キーを押すと逆に変わります。



3 **↑、↓、←、→キーを押して調整する。**
↑、↓キー：上部、下部調整のとき
←、→キー：左部、右部調整のとき

4 **調整が終了したら、MEMORYキーを押す。**
調整値が記憶されます。

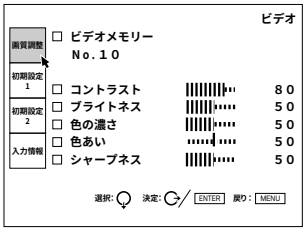
メニューで行う調整と設定

メニュー操作

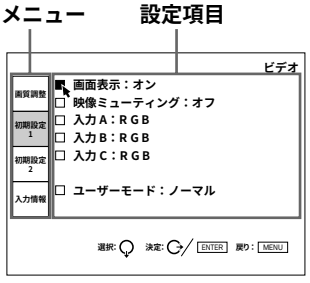
本機では、入力切り換えや画質調整、入力信号の設定、初期設定の変更、入力情報の確認など、各種調整や設定をメニュー画面で行います。
操作を行う対象者に応じてメニュー内容を制限するため、ユーザーモードとプロユーザーモードの2種類のメニューモードが用意されています。

基本的なメニュー操作

1 MENUキーを押す。
メニュー選択画面が表示されます。
現在選択されているメニューの項目が青色で表示されます。



2 ↓または↑キーを押してメニューを選び、→またはENTERキーを押す。
選んだメニューの設定項目が表示されます。
白の設定項目は、選択できません。



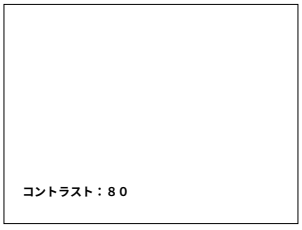
3 ↓または↑キーを押して設定項目を選び、→またはENTERキーを押す。
選んだ項目の調整画面、または選択画面（ポップアップメニュー）が表示されます。

次の画面に切り換えるには：
メニューが2画面以上ある場合、メニューの下に▼が表示されます。↓キーを押して一番下の項目を選び、もう一度↓キーを押すと次の画面に切り換わります。

前の画面に戻るには：
前の画面がある場合、メニューの上に▲が表示されます。↑キーを押して一番上の項目を選び、もう一度↑キーを押すと前の画面に切り換わります。

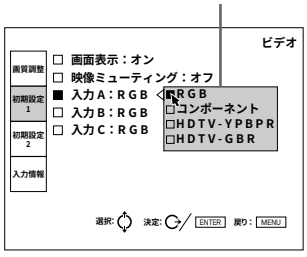
4 **設定項目の調整や選択をする。**

数値を変更する項目の場合：
数値を大きくするときは、↑または→キーを押す。
数値を小さくするときは、↓または←キーを押す。
ENTERキーを押すと、変更した数値が確定し、元の画面に戻ります。



設定を選択する場合：
↓または↑キーを押してポップアップメニューから設定を選択する。
項目によっては、選択すると同時にその結果や効果が画面に反映されます。反映されない項目は、←またはENTERキーを押すと選択した設定が確定し、ポップアップメニューが消えます。

ポップアップメニュー



◆ 詳しくは、それぞれのメニューのページをご覧ください。

メニュー画面を消す

MENUキーまたはNORMALキーを押す。
約1分間操作をしない場合もメニューは自動的に消えます。

設定値の記憶について

設定値は自動的に本体に記憶されます。また、MEMORYキーを押して記憶させることもできます。

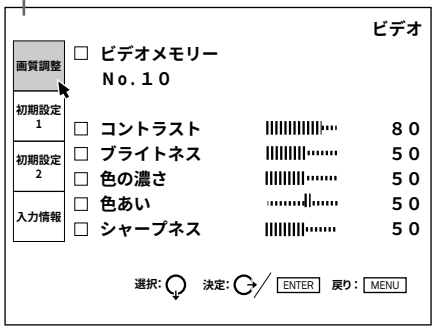
メニューモードについて

本機には2種類のメニューモードがあります。

ユーザーモード

エンドユーザー向けのメニューです。必要最小限の設定と調整ができます。

表示なし（ユーザーモード）



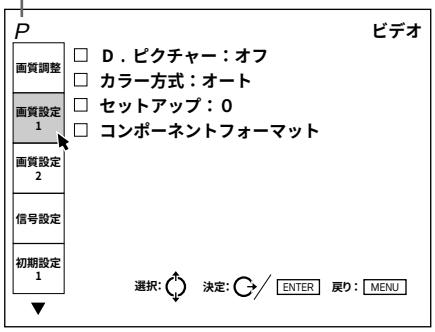
出荷時はユーザーモードに設定されています。
最初にMENUキーを押すと、ユーザーモードのメニューが現われます。

（続く）

プロユーザーモード（P）

エンドユーザーの中でもプロジェクターの操作や使いかたを熟知しているプロユーザー向けのメニューです。詳しい設定や調整ができ、本機の機能をフルに活用できます。

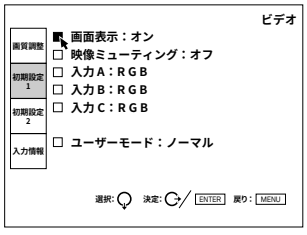
プロユーザーモード表示



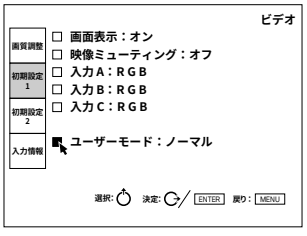
プロユーザーモードにするには

1 **MENUキーを押す。**
ユーザーモードのメニューが現われます。

2 **↓、↑キーを押して「初期設定1」を選び、ENTERキーまたは→キーを押す。**

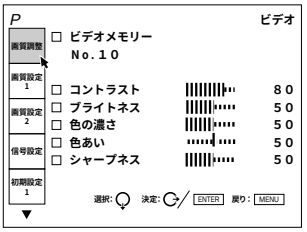


3 **↓、↑キーを押して「ユーザーモード」を選び、ENTERキーまたは→キーを押す。**



4 **↓、↑キーを押してポップアップメニューから「プロ」を選び、ENTERキーまたは←キーを押す。**
メニューが消えます。

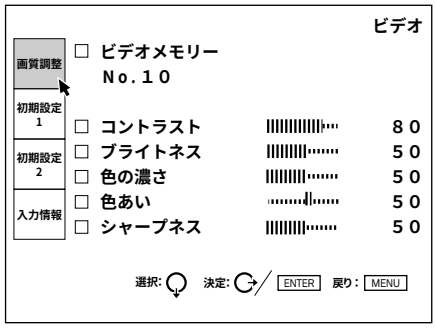
5 **MENUキーを押す。**
画面左上に「P」の文字が表示され、プロユーザーモードのメニューが現われます。



ユーザーモードに戻すには
上記と同じ手順で初期設定1メニューの「ユーザーモード」の設定を「ノーマル」にします。
ENTERキーまたは←キーを押していったんメニューを消し、再びMENUキーを押してメニューを表示すると、ユーザーモードのメニューが現われます。

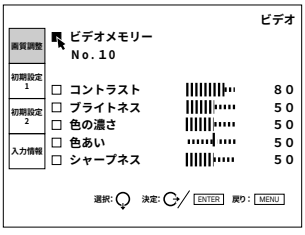
画質調整メニュー [ユーザー/プロユーザーモード]

画質を調整するメニューです。
調整できる項目は緑色で表示されます。調整できない項目は白で表示されます。



ビデオメモリー

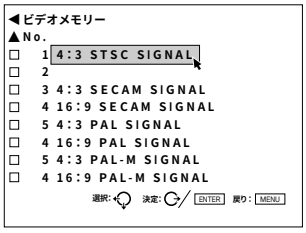
ビデオメモリーの番号1～10を選びます。



ビデオメモリーとは、セットメモリーの中にあり、画像アスペクトや画質調整データなどを記憶したメモリーです。10種類のビデオメモリーがあります。
1～10の番号を選択し、画像アスペクトの変更や画質調整をすると、選んだ番号のビデオメモリーにメモリーされます。
また、入力メモリーの中に記憶されている画像アスペクトや画質調整データを呼び出したいときは、「オフ」を選びます。

ビデオメモリーのデータ内容
色温度、Dピクチャー、Vシフト ワイド/ナロー、コンポーネントフォーマット、コムフィルター、DRCレベル、コントラスト、ブライトネス、色の濃さ、色あい、シャープネス、RGBサイズ、RGBシフト、ブランキング

ビデオメモリーの番号を選ぶには
ビデオメモリーを選んで➡またはENTERキーを押すと、ビデオメモリー選択画面が現われます。⬇または⬆キーを押して好みの番号を選び、⬅またはENTERキーを押します。

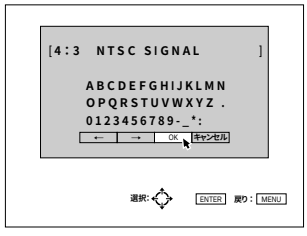


工場出荷時のビデオメモリーの画像アスペクト
工場出荷時、各ビデオメモリーには下記の画像アスペクトのデータが記憶されています。

No.	画像アスペクト
1	4：3
2	4：3
3	4：3
4	4：3
5	4：3
6	16：9
7	16：9
8	16：9
9	16：9
10	16：9

ビデオメモリーの名称を変更するには（プロユーザーモードのみ）
画質などを調整後、調整内容に合うようにビデオメモリーの名称を変更することができます。

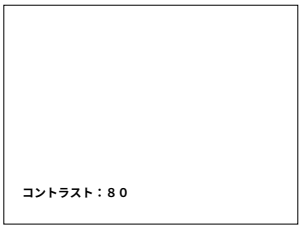
ビデオメモリー選択画面で変更したい番号を選び、➡キーを押すと次の画面が表示されます。



⬇、⬆、⬅、➡キーで矢印を好みの文字に合わせ、ENTERキーを押します。
選んだ文字が上部の[ ]内に表示されます。
この手順を繰り返し、18文字まで選ぶことができます。
文字を指定し終わったら、カーソルをOKに合わせ、ENTERボタンを押すと、ビデオメモリー選択画面に戻ります。

コントラスト

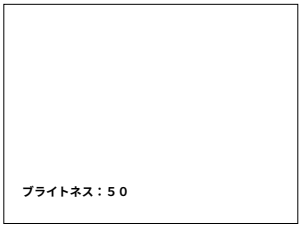
コントラストを調整します。



設定値が大きくなるとコントラストが強くなり、小さくなると弱くなります。

ブライトネス

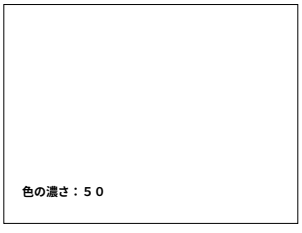
ブライトネスを調整します。



設定値が大きくなると明るくなり、小さくなると暗くなります。

色の濃さ

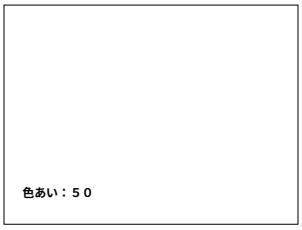
色の濃さを調整します。



設定値が大きくなると濃くなり、小さくなると薄くなります。

色あい

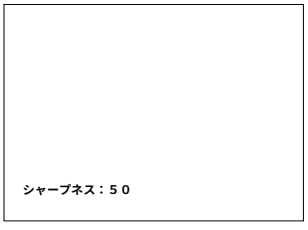
肌色を調整します。



設定値が大きくなると緑がかり、小さくなると紫がかります。

シャープネス

シャープネスを調整します。



設定値が大きくなるとくっきりし、小さくなると柔らかになります。

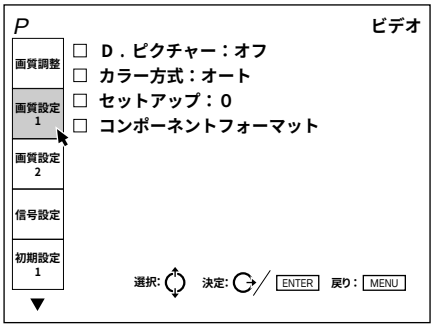
入力信号と調整・設定項目

項目	入力信号			
	ビデオまたは Sビデオ (Y/C)	コンポーネント SDI 4：2：2	ハイビジョン	RGB
ビデオメモリー	○	○	○	○
コントラスト	○	○	○	○
ブライトネス	○	○	○	○
色の濃さ	○	○	○	×
色あい	○ (NTSC$_{3.58}$/ NTSC$_{4.43}$のみ)	○	○	×
シャープネス	○	○	○	×

○：調整・設定できる項目　×：調整・設定できない項目

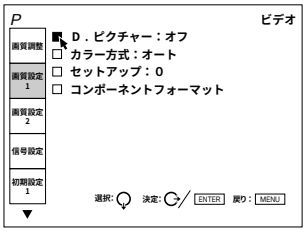
画質設定1メニュー [プロユーザーモード]

画質を設定するメニューです。
設定できる項目は緑色で表示されます。設定できない項目は白で表示されます。



D.ピクチャー（ダイナミックピクチャー）

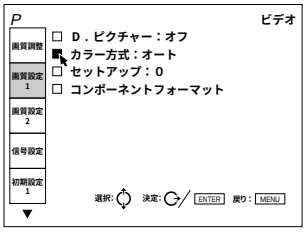
ビデオ（コンポジット映像）信号、Sビデオ（Y/C）信号またはコンポーネント信号のとき黒を強調します。



オン：黒をより黒く再現し、メリハリのきいた画面にします。
オフ：画面の暗い部分を、映像ソースに忠実に再現します。

カラー方式

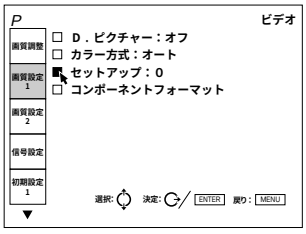
ビデオ（コンポジット映像）信号またはSビデオ（Y/C）信号のとき、カラー方式を選びます。



「オート」、「NTSC3.58」、「PAL」、「SECAM」、「NTSC4.43」、「PAL-M」の中から選びます。
通常は「オート」にしておくと、自動的に判別します。
信号の状態が悪く、画が乱れたり色がつかない場合は、入力信号のカラー方式に合わせて選択してください。

セットアップ

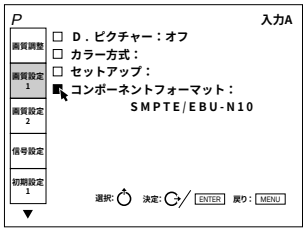
NTSC信号のとき、セットアップレベル（黒の基準値）を設定します。



0 (0 IRE)：**通常はこの位置にします。**
7.5 (7.5 IRE)：**映像ソースにより、黒が浮いたように見えるときはこの位置にします。**

コンポーネントフォーマット

入力されるコンポーネント信号のフォーマットを選びます。



SMPTE/EBU-N10：**SMPTEまたはEBU-N10方式のコンポーネント信号のときはこの位置にします。**
BETACAM7.5：**ベータカム方式のコンポーネント信号のときはこの位置にします。**

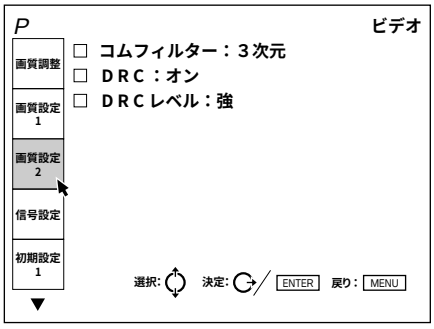
入力信号と調整・設定項目

項目	入力信号			
	ビデオまたはSビデオ（Y/C）	コンポーネントSDI 4：2：2	ハイビジョン	RGB
D.ピクチャー	○	○	×	×
カラー方式	○	×	×	×
セットアップ	○（$NTSC_{3.58}$/$NTSC_{4.43}$のみ）	×	×	×
コンポーネントフォーマット	×	○	×	×

○：調整・設定できる項目　×：調整・設定できない項目

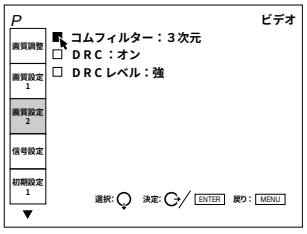
画質設定2メニュー [プロユーザーモード]

画質を設定するメニューです。
設定できる項目は緑色で表示されます。設定できない項目は白で表示されます。



コムフィルター

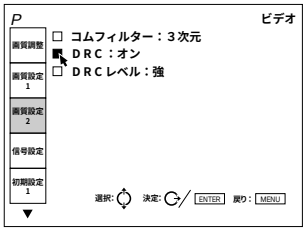
NTSC信号のとき、クロスカラーやドット妨害を低減し、鮮やかな画像にするコムフィルターを選びます。



3次元：3次元コムフィルター。通常はこの位置にします。
3ライン：3ラインコムフィルター。動きの激しい動画などでは、この方が画がはっきり見えることがあります。

DRC（デジタル・リアリティー・クリエーション）

NTSC映像を4倍密の画像にする機能です。



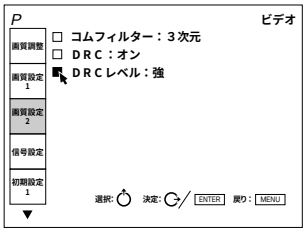
通常は「オン」にしておきます。15 kHz信号が入力されると、倍速処理されます。DRC機能を使いたくないときは「オフ」にします。

ご注意

DRCは、15 kHz信号がビデオ信号のタイミングに準拠しているときのみ有効です。特殊なタイミングのときDRCを「オン」にすると、画像が乱れることがあります。

DRCレベル

NTSC信号のときDRCの効果を選びます。
インターレース信号のときだけ選択可能です。



出荷時は「強」になっています。画像のギラツキが気になるときは「弱」にします。

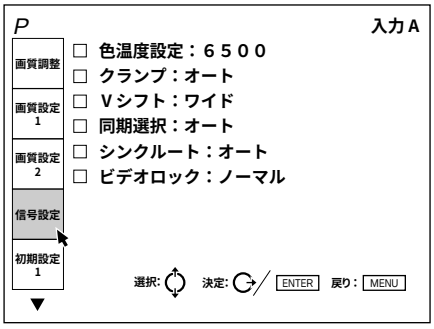
入力信号と調整・設定項目

項目	入力信号			
	ビデオまたはSビデオ（Y/C）	コンポーネントSDI 4：2：2	ハイビジョン	RGB
コムフィルター	○（NTSC3.58のみ）	×	×	×
DRC	○	○	×	○（15 kHz RGBのみ）
DRCレベル	○	○	×	○（15 kHz RGBのみ）

○：調整・設定できる項目　×：調整・設定できない項目

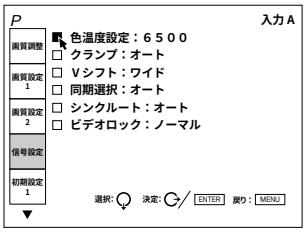
信号設定メニュー [プロユーザーモード]

入力信号の設定を変更するメニューです。
設定できる項目は緑色で表示されます。設定できない項目は白で表示されます。



色温度設定

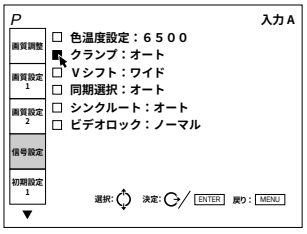
入力信号の種類や画像に合わせて好みの色温度を選びます。



9300：民生機器の標準色温度
6500：業務用機器の標準色温度
5400：HDTVの標準色温度
3200：メディカル機器やスタジオ用カメラの標準色温度
カスタム：特定の入力信号の色だけをディスプレイの色と合わせたいとき

クランプ

入力される画像の輝度がおかしいときに、クランプ位置を変更します。



クランプとは映像の黒レベルを正しい位置に設定する基準となるものです。基準となる位置は映像信号によって異なります。通常、プロジェクター内部のCPUが入力信号を判別し、クランプ位置を自動設定しますが、ノイズなどの影響でまれに誤って判別することがあります。外部信号を映して画面の輝度に異常が見られたときは、クランプ位置の設定を変えてください。

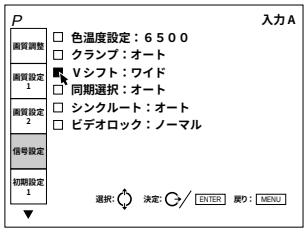
オート：クランプ位置自動設定モード。通常はこの位置にします。
同期付G：黒であるべきところが明るく（もしくは緑色で）浮いたような画像になっているときはこの位置にします。
水平/複合：画面全体が暗かったり、輝度にムラがあるときはこの位置にします。
水平パルス：「同期付G」や「水平/複合」に設定しても画面の輝度が正常にならないときは、この位置にしてHシフト調整をします。
三値同期：三値シンク入力時、画面が暗くなるようなときはこの位置にします。

ご注意

- 接続される外部信号に「同期付G」がない場合は、「水平/複合」に固定することをおすすめします。
- どの位置を選んでも正常な画面にならない場合は、入力している信号が正常でない、接続に問題があるなど別の原因が考えられます。入力信号や接続をもう一度確認してください。

Vシフト（垂直シフト）

入力される画像の上下方向の位置の可変範囲を設定します。



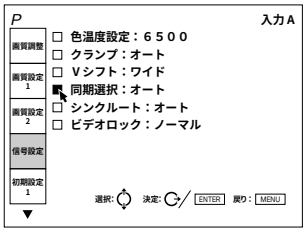
ワイド：通常はこの位置にします（出荷時の設定）
ナロー：スーパーインポーズ信号などの垂直同期信号の周期が一定でない信号を入力した場合は、上下方向に映像が乱れることがあります。この場合はこの位置にして、上下方向への設定可能範囲を狭くします。

ご注意

入力信号がビデオ、Sビデオ、コンポーネントまたはSDI 4:2:2信号のとき、「Vシフト」は「ナロー」に固定されます。

同期選択

同期信号を選びます。
外部信号で同期をとるときなどに使います。



RGB信号の場合

オート： 自動設定モード。通常はこの位置にします。
同期付G： 同期付G信号に含まれている同期信号を使うときはこの位置にします。
複合： 複合同期を使うときはこの位置にします。
水平垂直： 水平、垂直同期を使うときはこの位置にします。

ハイビジョン信号の場合
上記の項目の代わりに次の項目が選択できます。

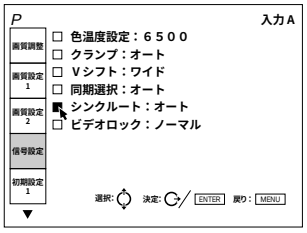
オート： 自動設定モード。通常はこの位置にします。
内部：信号に含まれている同期を使うときはこの位置にします。
外部［複合］：外部の複合同期を使うときはこの位置にします。
外部［水平垂直］：外部の水平、垂直同期を使うときはこの位置にします。

ご注意

RGB信号の場合、同期付Gと複合/水平垂直があるときだけ設定できます。

シンクルート

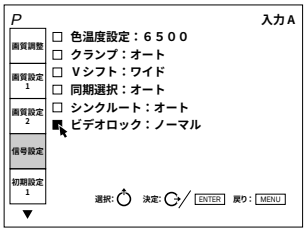
INPUT Aに入力されたRGB信号の同期（シンク）ルートを選択します。



オート： 自動設定モード。通常はこの位置にします。
ノーマル： 通常の同期入力時（SYNCラインにビデオ信号が乗っていない場合）はこの位置にします。
ビデオ信号付きシンク：SYNCラインにビデオ信号が乗っている場合、「オート」では画像の同期が乱れるときはこの位置にします。

ビデオロック

入力メモリーが自動的に切り換わる入力信号の変動範囲を選択します。RGB入力のときのみ選択可能です。



ノーマル： 通常はこの位置にします。
ワイド：ビデオの特殊再生時など、入力信号が著しく乱れ、点滅するように見えるときはこの位置にします。

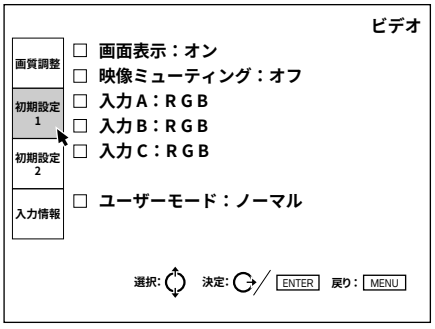
入力信号と調整・設定項目

項目	入力信号			
	ビデオまたはSビデオ（Y/C）	コンポーネントSDI 4：2：2	ハイビジョン	RGB
色温度	○	○	○	○
クランプ	×	×	×	○
Vシフト	×	×	○	○
同期選択	×	×	○	○
シンクルート	×	×	×	○
ビデオロック	×	×	×	○

○：調整・設定できる項目　×：調整・設定できない項目

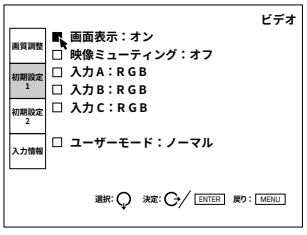
初期設定1メニュー [ユーザー/プロユーザーモード]

プロジェクターの初期設定を変更するメニューです。
設定できる項目は緑色で表示されます。設定できない項目は白で表示されます。



画面表示

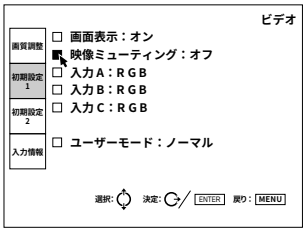
画面表示の設定をします。



オン： 画面表示をすべて表示します。
オフ：警告メッセージとメニュー以外の画面表示が出ないようにします。

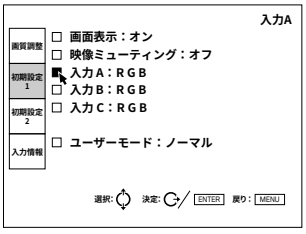
映像ミューティング

映像を消すとき、「オン」にします。「オン」のときは「映像ミューティング」というメッセージが画面に表示されます。



入力A

INPUT A端子に入力する信号を選びます。



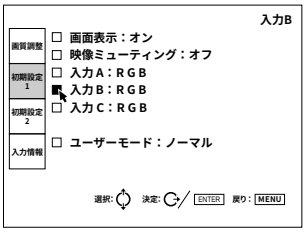
RGB： **RGB信号を入力するとき**
コンポーネント： コンポーネント信号を入力するとき
HDTV-YP_BP_R： **ハイビジョン信号（Y P_B P_R）を入力するとき**
HDTV-GBR： **ハイビジョン信号（GBR）を入力するとき**

ご注意

本機にシグナルインターフェーススイッチャーPC-3000が接続されているときは、この項目は選択できません。

入力B

INPUT Bに装着したシグナルインターフェースボードIFB-12/12A（別売り）をINPUTモードにしたときに入力する信号を選びます。



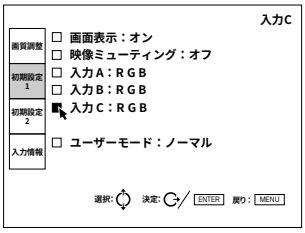
RGB： **RGB信号を入力するとき**
コンポーネント： コンポーネント信号を入力するとき
HDTV-YP_BP_R： **ハイビジョン信号（Y P_B P_R）を入力するとき**
HDTV-GBR： **ハイビジョン信号（GBR）を入力するとき**
ビデオ： コンポジット映像信号を入力するとき
Sビデオ： Sビデオ信号を入力するとき

ご注意

IFB-12/12AがOUTPUTモードのときや、IFB-12/12A以外のシグナルインターフェースボードを装着したときは、この項目は選択できません。

入力C

INPUT Cに装着したシグナルインターフェースボードIFB-12/12A（別売り）をINPUTモードにしたときに入力する信号を選びます。



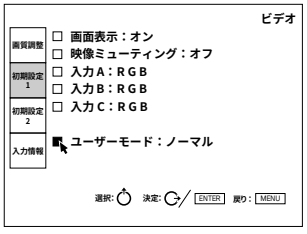
RGB：**RGB信号を入力するとき**
コンポーネント：コンポーネント信号を入力するとき
HDTV-YPBPR：**ハイビジョン信号（Y PB PR）を入力するとき**
HDTV-GBR：**ハイビジョン信号（GBR）を入力するとき**
ビデオ：コンポジット映像信号を入力するとき
Sビデオ：**Sビデオ信号を入力するとき**

ご注意

IFB-12/12AがOUTPUTモードのときや、IFB-12/12A以外のシグナルインターフェースボードを装着したときは、この項目は選択できません。

ユーザーモード

ユーザーモードとプロユーザーモードを切り換えます。



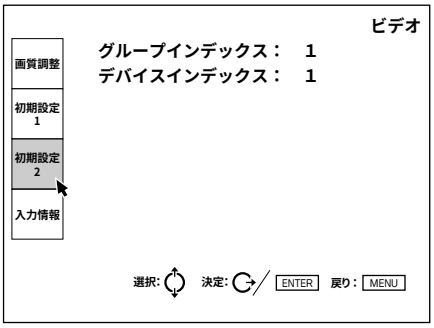
ノーマル：ユーザーモード
プロ：プロユーザーモード

◆ **詳しくは、「メニューモードについて」（31ページ）をご覧ください。**

初期設定2メニュー
[ユーザー/プロユーザーモード]

プロジェクターの初期設定を変更するメニューです。
設定できる項目は緑色で表示されます。設定できない項目は白で表示されます。

ユーザーモード



グループインデックス

グループインデックスが設定してあるとき、グループインデックス番号を表示します。
プロジェクターがワイヤレスリモコンやPJ COM端子からコントロールできるときは緑色、コントロールできないときは黄色で番号が表示されます。

ご注意

グループインデックス番号は、プロユーザーモードで設定できます。

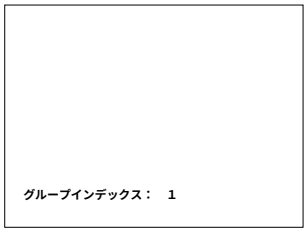
デバイスインデックス

本機後面のDEVICE INDEXスイッチで設定してあるデバイスインデックス番号を表示します。
プロジェクターがワイヤレスリモコンやPJ COM端子からコントロールできるときは緑色、コントロールできないときは黄色で番号が表示されます。

プロユーザーモード

グループインデックス

複数台のプロジェクターやスイッチャーを同一グループに指定するグループインデックス番号を設定します。
1～99の番号を設定することができます。
プロジェクターがワイヤレスリモコンやPJ COM端子からコントロールできるときは緑色、コントロールできないときは黄色で番号が表示されます。



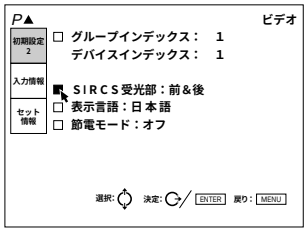
◆ グループインデックスについて詳しくは、「インデックス番号の設定」(53ページ) をご覧ください。

デバイスインデックス

本機後面のDEVICE INDEXスイッチで設定してあるデバイスインデックス番号を表示します。
プロジェクターがワイヤレスリモコンやPJ COM端子からコントロールできるときは緑色、コントロールできないときは黄色で番号が表示されます。

SIRCS受光部

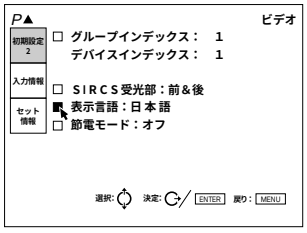
プロジェクターの前面と後面のリモコン受光部の設定をします。蛍光灯などの影響でワイヤレスリモコンが正しく動作しないとき設定を変更します。



前&後： 前面と後面のリモコン受光部を両方働かせるとき
前： 前面のリモコン受光部だけを働かせるとき
後： 後面のリモコン受光部だけを働かせるとき
オフ： リモコン受光部を両方とも働かせないとき

表示言語

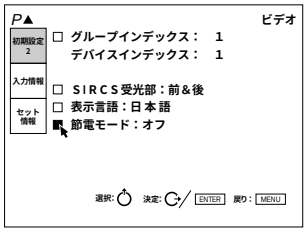
画面表示の言語を変えることができます。



「ENGLISH」(英語)、「FRANCAIS」(フランス語)、「DEUTSCH」(ドイツ語)、「ITALIANO」(イタリア語)、「ESPANOL」(スペイン語)、「日本語」、「中文」(中国語) から選ぶことができます。

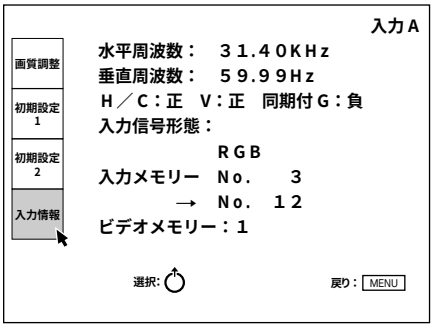
節電モード

「オン」にすると、本体に信号が入力されない状態が10分以上続いたとき節電モードになり、全黒表示されます。節電モードは、信号が入力されたり、キー操作をすると解除されます。



入力情報メニュー [ユーザー/プロユーザーモード]

現在入力中の信号の情報を表示するメニューです。



水平周波数

水平周波数を表示します。
周波数表示は絶対的な値ではなく目安となる値です。
緑色のときは入力信号の水平周波数、黄色のときは内部発振器からの信号の水平周波数を示します。

垂直周波数

垂直周波数を表示します。
周波数表示は絶対的な値ではなく目安となる値です。
緑色のときは入力信号の水平周波数、黄色のときは内部発振器からの信号の水平周波数を示します。

H/C（水平/複合同期）
V（垂直同期）
同期付G

各同期信号の有無と極性を表示します。

正：正極性
負：負極性
－：同期信号が入力されていない状態

入力信号形態

入力信号の種類を表示します。

内部発振：入力なし
コンポーネント：コンポーネント入力
IDTV：**IDTV入力（別売りの拡張ボードIFB-3000を装着したスイッチャーPC-1271J接続時）**
15 kRGB：**15 k RGB入力**
RGB：**RGB入力**
HDTV YPBPR：**ハイビジョンYP_BP_R入力**
HDTV GBR：**ハイビジョンGBR入力**
SDI 4：2：2：**SDI 4：2：2入力**
DRC：**DRCをONにしたとき**

ビデオまたはSビデオ信号のとき

NTSC 3.58：**$NTSC_{3.58}$方式**
NTSC 4.43：**$NTSC_{4.43}$方式**
PAL：**PAL方式**
PAL-M：**PAL-M方式**
SECAM：**SECAM方式**
B/W：**白黒映像入力**
Sビデオ：**Sビデオ(Y/C)入力**

入力メモリーNo.

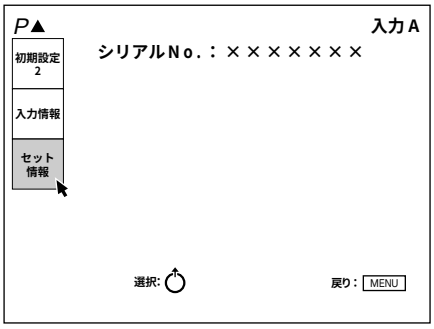
1行目は、現在投影中の映像信号が入力されたとき、自動的に呼び出された入力メモリー番号を示します。2行目は、その映像信号の調整データが記憶される入力メモリー番号を示します。
緑色は既存メモリー、黄色は新規メモリー、赤色は消去保護設定されていることを示します。

ビデオメモリー

選択されているビデオメモリーの番号を示します。

セット情報メニュー [プロユーザーモード]

本機のシリアルナンバーのバージョンを表示します。



シリアルNo.

本機の製造ナンバーを表示します。

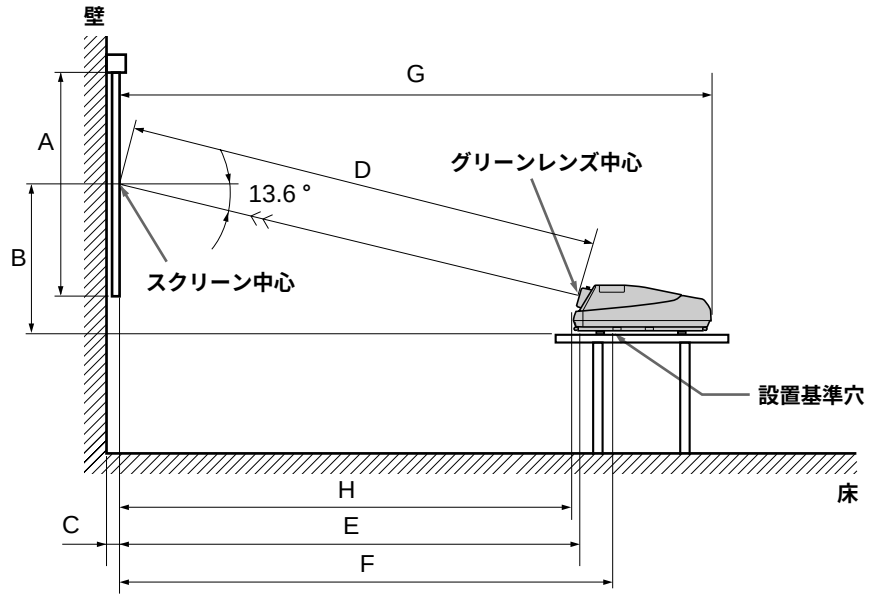
設置/接続例

設置例

最初の設置と設置後の調整は、ソニーのサービス担当者にお任せください。このプロジェクターは、90インチから300インチまでの投影に対応しています。

設置例1：床置き、フロント投影（平面スクリーン使用時）

プロジェクターは床に平行に設置してください。



B：プロジェクター底面からスクリーン中心までの長さ
E：スクリーンからグリーンレンズ中心までの水平距離
F：スクリーンから設置基準穴までの水平距離
H：スクリーンからプロジェクター前面までの水平距離

許容寸法　B：±5 %
その他の寸法：0 % ～ +5 %

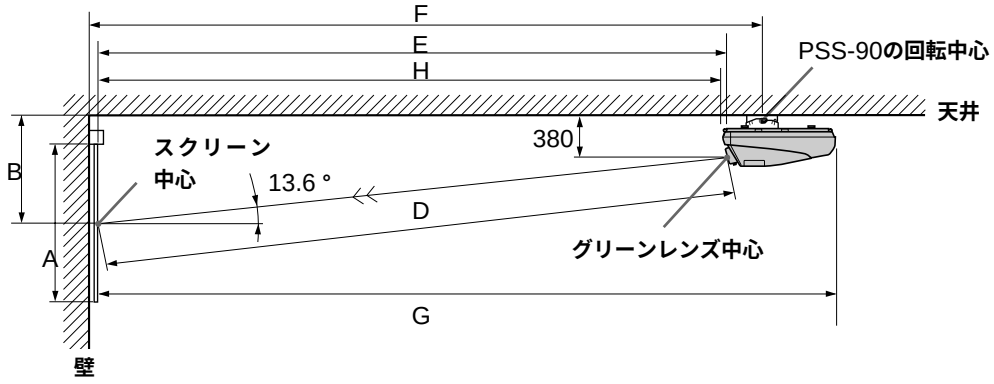
は出荷時の設定　単位：mm

スクリーンサイズ（インチ）	90	100	120	150	180	200	250	300
A (Vsize)	1372	1524	1829	2286	2743	3048	3810	4572
B (Hcent)	899	959	1084	1296	1497	1630	1950	2294
C (Width)		32[a)]	32[b)]					
D (TD)	2587	2847	3373	4285	5137	5702	7065	8533
E (Xlens)	2514	2767	3278	4165	4993	5542	6867	8294
F (Lhole)	2764	3017	3528	4415	5243	5792	7117	8544
G (Lmax)	3520	3773	4284	5171	5999	6548	7873	9300
H (Lfront)	2455	2708	3219	4106	4934	5483	6808	8235

a) ソニー製スクリーン VPS-100FMJ
b) ソニー製スクリーン VPS-120FH、VPS-120FMJ

設置例2：天井つり、フロント投影（平面スクリーン使用時）

別売りのプロジェクターサスペンションサポートPSS-90を使用して天井に吊り下げます。



E：スクリーンからグリーンレンズ中心までの水平距離
H：スクリーンからプロジェクター前面までの水平距離

許容寸法　B：±5 %
その他の寸法：0 % ～ +5 %

単位：mm

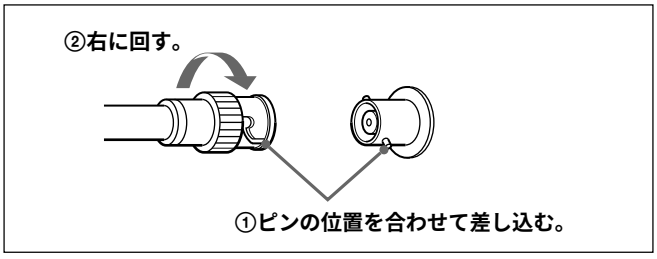
スクリーンサイズ（インチ）	90	100	120	150	180	200	250	300
A (Vsize)	1372	1524	1829	2286	2743	3048	3810	4572
B (Hcent)	990	1050	1175	1387	1588	1721	2041	2385
D (TD)	2587	2847	3373	4285	5137	5702	7065	8533
E (Xlens)	2514	2767	3278	4165	4993	5542	6867	8294
F (Lhole)	2932	3185	3696	4583	5411	5960	7285	8712
G (Lmax)	3520	3773	4284	5171	5999	6548	7873	9300
H (Lfront)	2455	2708	3219	4106	4934	5483	6808	8235

接続例

接続するときは

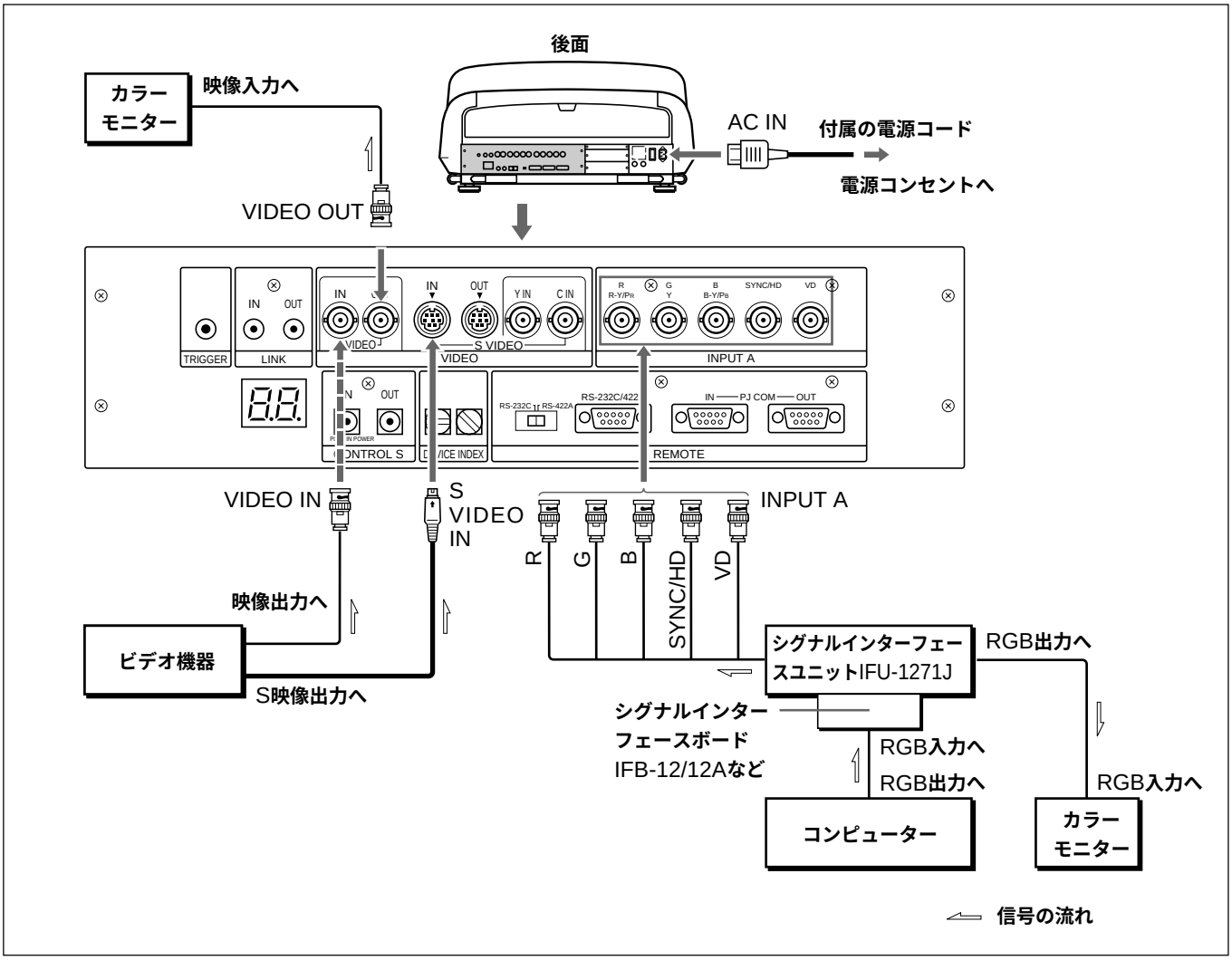
- **各機器の電源を切ってから接続を行ってください。**
- **接続ケーブルは、それぞれの端子の形状に合った正しいものをお選びください。**
- **プラグはしっかり差し込んでください。不完全な接続はノイズの原因になります。**
- **抜くときは必ずプラグを持って抜いてください。**
- **接続する機器の取扱説明書も併せてご覧ください。**

BNCコネクターの接続のしかた



プロジェクター本体に映像機器を直接接続する

1台のプロジェクターに直接、複数の映像機器を接続する例です。
シグナルインターフェースユニットIFU-1271Jをご使用ください。

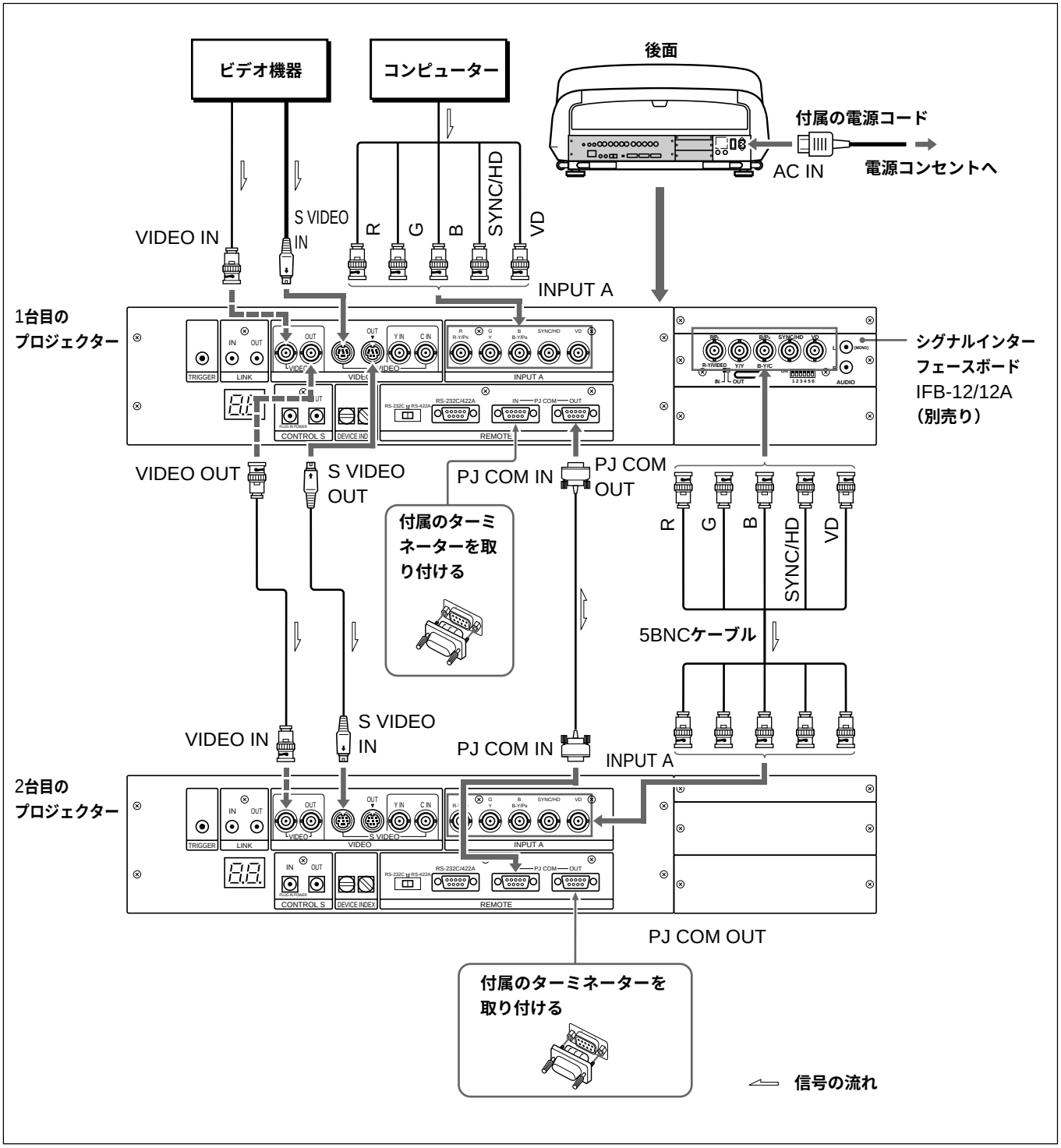


設定のしかた

- **初期設定1メニューの「入力A」(39ページ)を「RGB」に設定します。**
- **リモートコマンダーのINPUT SELECTキーで、ビデオ機器を接続した入力(「VIDEO」または「S VIDEO」)を選択します。**

複数のプロジェクターを直接接続する

PJ COMインターフェースを使って複数のプロジェクターを直接接続する例です。
プロジェクターのINPUT Bにシグナルインターフェースボード IFB-12/12Aを装着してください。



ご注意

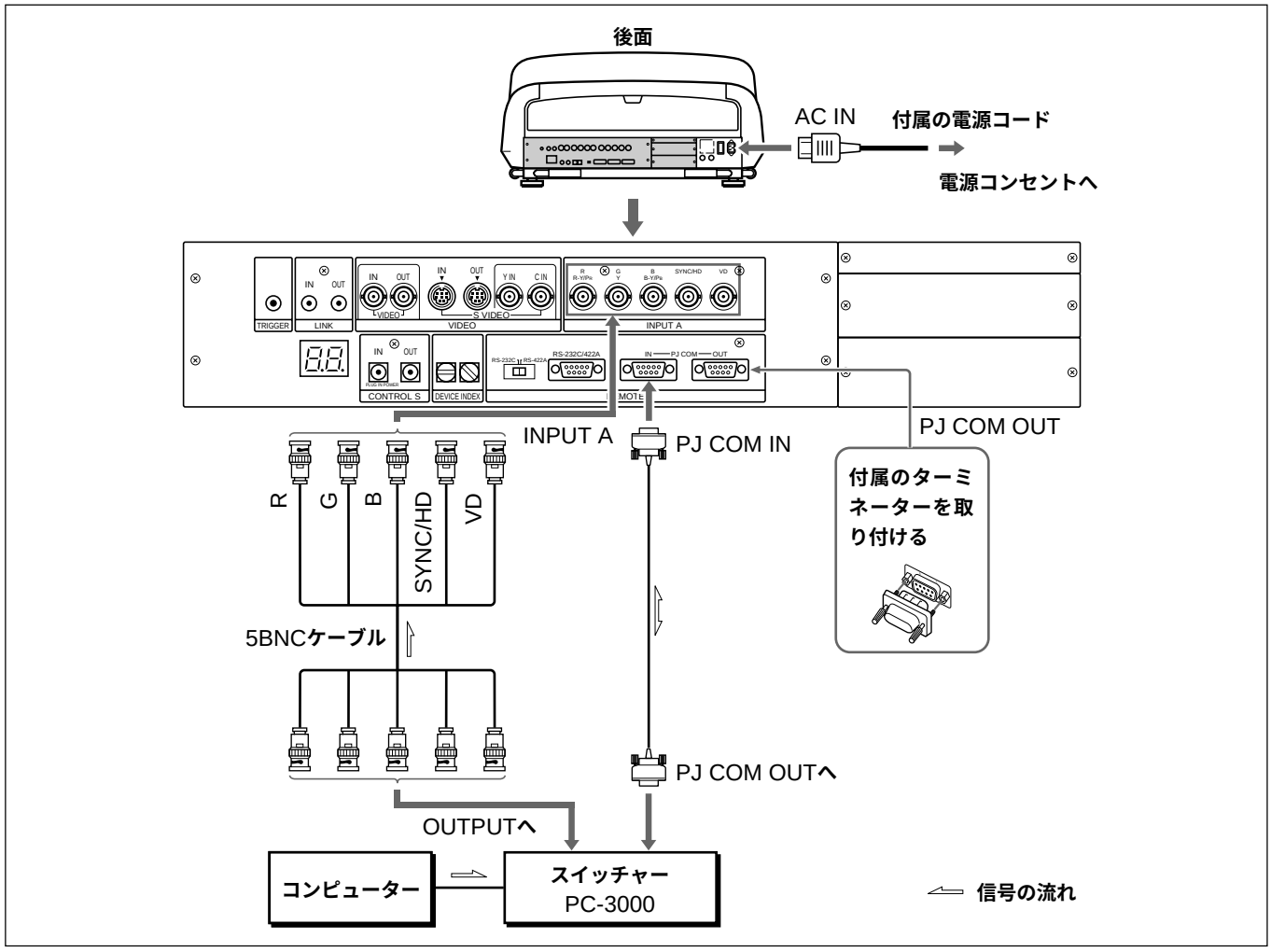
使用しないPJ COM IN、OUT端子には、必ず付属のターミネーターを取り付けて終端してください。

設定のしかた

- **IFB-12/12AのIN/OUT切り換えスイッチは、OUT（出力）に設定します。INPUT Aに入力された信号が、IFB-12/12Aから出力されます。**
- **プロジェクターのデバイスインデックス番号は、ビデオ機器やコンピューターと直接接続する1台目を必ず「01」に、2台目を「02」に設定します。（53ページ）**
- **リモートコマンダーをワイヤレスで使用するときは、システムの機器のうち1台のみをリモコン受光可能状態にし、その他の機器はリモコン受光部をオフにします。設定は、プロジェクターの場合、初期設定2メニューの「SIRCS受光部」（41ページ）で行います。**

シグナルインターフェーススイッチャーPC-3000を使用する

本機のINPUT Aにシグナルインターフェーススイッチャー PC-3000を接続することで、様々な機器を接続することができます。
付属のリモートコマンダーのSWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEXキーを押すだけで、簡単にスイッチャーの入力を切り換えることができます。



ご注意

使用しないPJ COM IN、OUT端子には、必ず付属のターミネーターを取り付けて終端してください。

設定のしかた

- プロジェクターのデバイスインデックス番号は「01」に設定します。（53ページ）
- スイッチャーのSW NOスイッチで、スイッチャー番号を「01」に設定します。
  ◆ 詳しくはスイッチャーの取扱説明書をご覧ください。
- リモートコマンダーをワイヤレスで使用するときは、システムの機器のうち1台のみをリモコン受光可能状態にし、その他の機器はリモコン受光部をオフにします。設定は、プロジェクターの場合、初期設定2メニューの「SIRCS受光部」（41ページ）で行います。
  ◆ スイッチャー側の設定のしかたは、スイッチャーの取扱説明書をご覧ください。

システム構成を確認する

すべての機器を接続したら、システム上にある機器の設定が正しいかどうか確認します。

1 それぞれの機器の電源コードをコンセントに差し込む。

2 リモートコマンダーまたはコントロールパネルのSYS SETキーを押す。
システム構成の情報や、インターフェースボードの設定などが自動的に認識されます。
終了するとメッセージが消えます。

ご注意

スイッチャーと組み合わせて使用した後、プロジェクター単体でお使いになるときは、機器を接続した後に、SYS SETキーを押してシステム構成を確認してください。このとき、「マススイッチャーがありません」のメッセージが表示されますが故障ではありません。

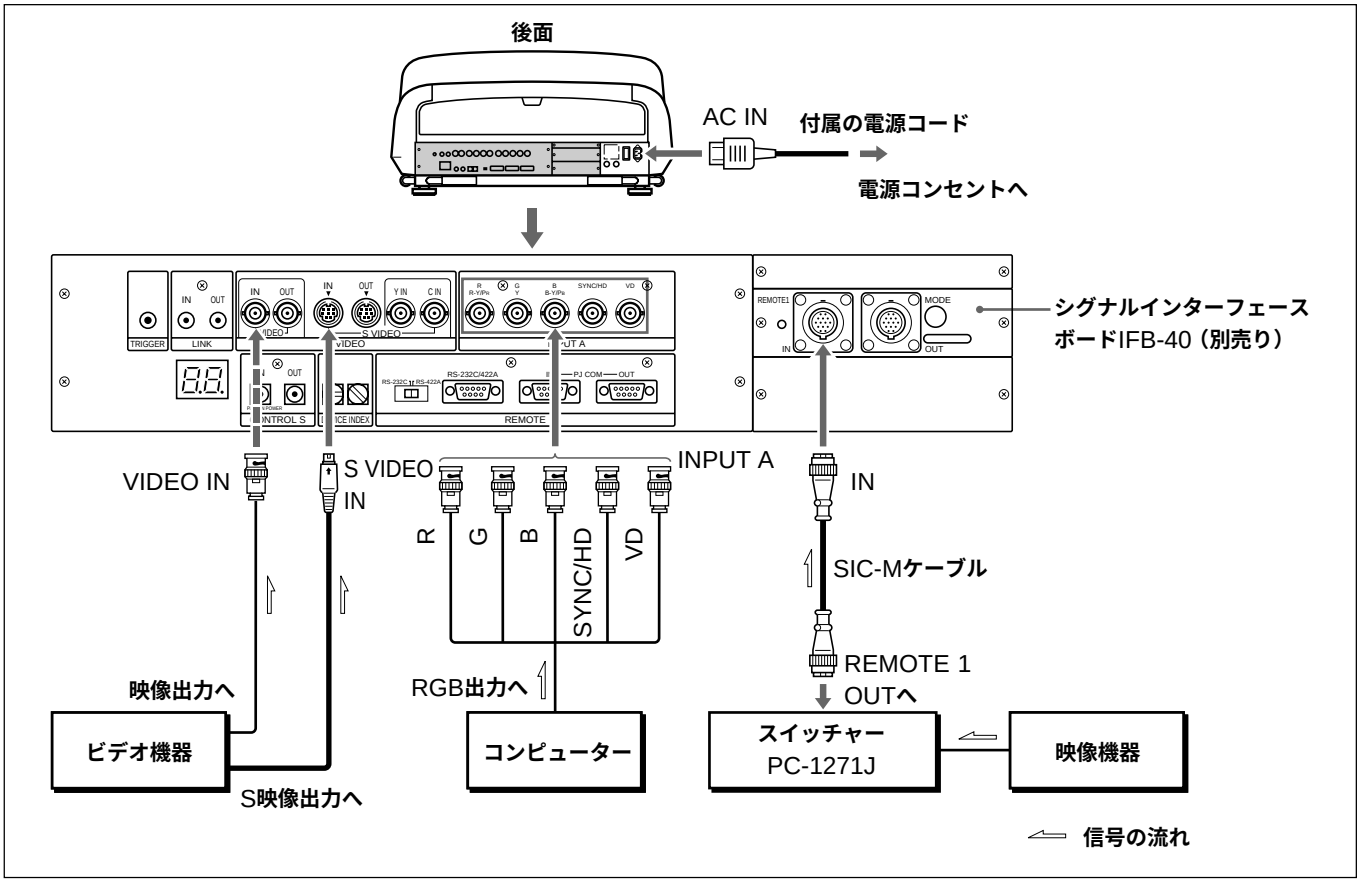
システムにエラーがあった場合

次のようなメッセージが画面に表示されます。

メッセージ	対処
マススイッチャーがありません。	プロジェクターに信号を出力するスイッチャーを1に設定する。
プロジェクターに同一デバイスインデックスを検出しました。	同一になっている番号のどちらかを変える。
スイッチャーに同一デバイスインデックスを検出しました。	同一になっている番号のどちらかを変える。

シグナルインターフェーススイッチャーPC-1271Jを使用する

本機に別売りのシグナルインターフェースボードIFB-40を装着し、シグナルインターフェーススイッチャーPC-1271Jを接続することで、様々な機器を接続することができます。
リモートコマンダーのSWITCHER/VIDEO MEMORY/INDEXキーを押すだけで、簡単にスイッチャーの入力を切り換えることができます。



使用可能なSIC-Mケーブルは以下のとおりです。

ケーブルの長さ	1 m	5 m	15 m	25 m	50 m
ケーブルの型名	SIC-M-1	SIC-M-5	SIC-M-15	SIC-M-25	SIC-M-50

ご注意

- SIC-Mケーブルのオス側とメス側を正しく接続してください。
- SIC-Mケーブルは50 mまで延長することができます。
- 本機のINPUT Bに装着したIFB-40には、ビデオ帯域70MHz以下の信号を入力してください。70MHz以上の信号は、5BNCケーブルを使用してINPUT Aへ接続してください。

設定のしかた

- 初期設定1メニューの「入力A」（39ページ）を「RGB」に設定します。
- リモートコマンダーのINPUT SELECTキーで、ビデオ機器を接続した入力（「VIDEO」または「S VIDEO」）を選択します。
- スイッチャーのSINGLE/SECOND/OTHER切り換えスイッチをSINGLEに設定します。

インデックス番号の設定

複数のプロジェクターを使用する場合は、グループインデックス番号とデバイスインデックス番号を設定する必要があります。

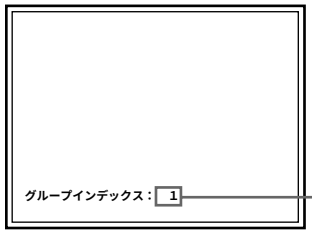
グループインデックス番号を設定するには

グループインデックス番号を設定すると、複数台のプロジェクターやスイッチャーを同一のグループに指定し、チャンネル切り換えなどの動作をグループで一斉に行うことができるようになります。

1 プロユーザーモードにする。
◆詳しくは、「メニューモードについて」(31ページ) をご覧ください。

2 初期設定2メニューを表示させ、↓、↑キーを押して「グループインデックス」を選び、ENTER キーを押す。

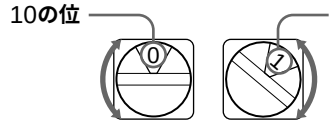
3 ←、→キーを押して、1～99のグループインデックス番号を設定し、ENTERキーを押す。



4 MENUキーを押す。

デバイスインデックス番号を設定するには

デバイスインデックス番号を設定すると、付属のリモートコマンダーから各プロジェクターを個別に制御することができます。
デバイスインデックス番号は本体後面のDEVICE INDEXスイッチで設定します。
出荷時は「01」に設定されています。1台で使用するときは「01」に設定します。



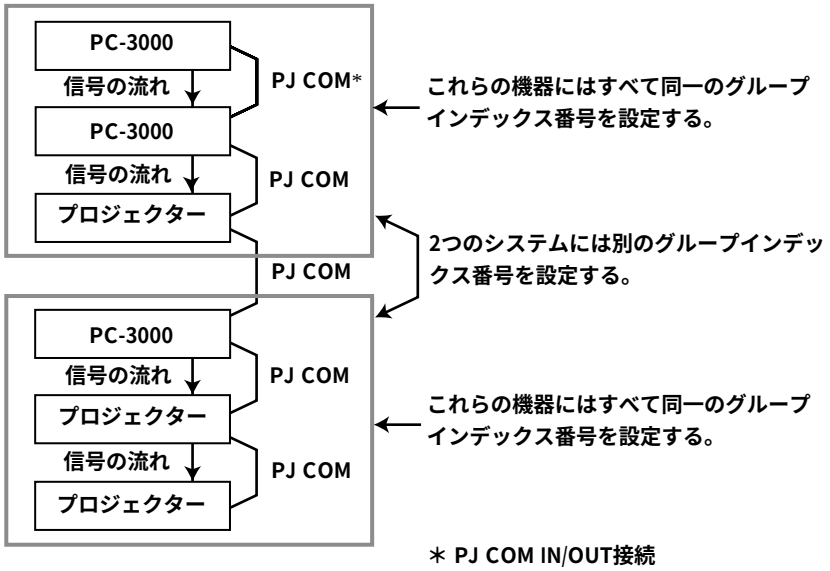
(続く)

ご注意

- **同一システム内のプロジェクターに同じデバイスインデックス番号を設定しないでください。**
- **「00」には設定しないでください。「00」に設定するとプロジェクターは、コントロールパネルからしか操作できません。ワイヤレスまたはワイヤードリモコン、またはPJ COM端子に接続されている外部機器で操作することはできません。**

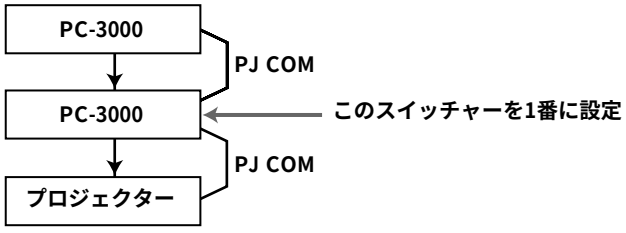
インデックス番号設定時のご注意

- **同一システム（入力ソースからプロジェクターまでの信号経路）上にあるすべての機器は、同一のグループインデックス番号を設定する。**



- **グループインデックス番号とデバイスインデックス番号、スイッチャー番号を正しく設定する。**
  同一グループ内に同じデバイスインデックス番号やスイッチャー番号を設定しないでください。例えば、同一グループ内に、スイッチャー番号1に設定されたスイッチャーが複数あると、SYS SETキーを押したときエラー表示がでます。

- **プロジェクターへ信号を出力するスイッチャーの番号は必ず1に設定する。**



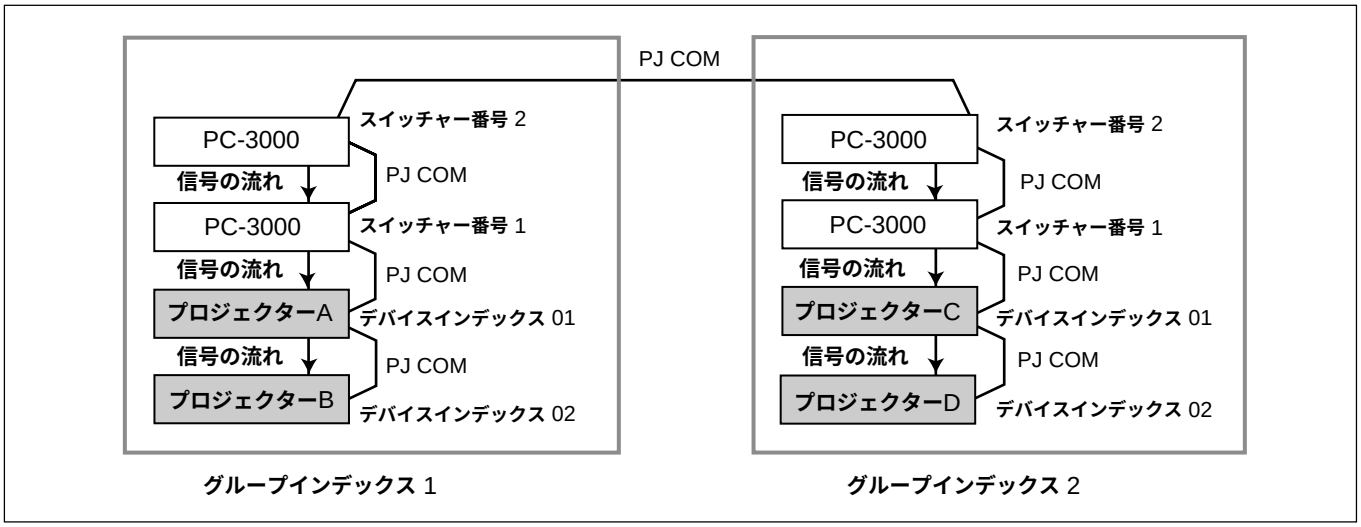
スイッチャーを2台以上使用する場合の接続時のご注意

- **スイッチャーの番号 n 番のスロット1にシグナルインターフェースボードIFB-12/12Aを装着し、スイッチャー番号 (n+1) 番の出力をIFB-12/12Aに接続する。**

- **シグナルインターフェースボードIFB-12/12A (IN/OUT切り換えスイッチをOUTに設定したもの)はスイッチャー番号1のスイッチャーにしか装着できません。**

インデックス番号を指定してプロジェクターを選択するには

スイッチャーやプロジェクターが図のように接続されている場合、次の例のようにリモートコマンダーのキーを押してプロジェクターを選択します。



例：

すべてのプロジェクターを選択したいとき

GROUP → ALL → ENTER → ALL → ENTER

（プロジェクターA、B、C、Dが選択されます。）

グループの中からデバイスインデックス番号01のプロジェクターを選択したいとき

GROUP → ALL → ENTER → 1 → ENTER

（プロジェクターA、Cが選択されます。）

グループインデックス番号2、デバイスインデックス番号01のプロジェクターを選びたいとき

GROUP → 2 → ENTER → 1 → ENTER

（プロジェクターCが選択されます。）

グループインデックス番号2のプロジェクターをすべて選択したいとき

GROUP → 2 → ENTER → ALL → ENTER

（プロジェクターC、Dが選択されます。）

ご注意

- **グループインデックス番号とデバイスインデックス番号を正しく設定してください。グループインデックス番号とデバイスインデックス番号の両方が同一に設定されている機器が複数あるとSYS SETキーを押したときエラー表示が出ます。**
- **グループインデックス番号が2桁のときは、1つの数字の前に1回ずつ、GROUPキーを押してください。**

  例：グループインデックス番号12、デバイスインデックス番号13のプロジェクターを選択したいとき

  GROUP → 1 → GROUP → 2 → ENTER → 1 → 3 → ENTER

保守・点検・その他

トラブル時の対処

修理に出す前に、もう一度次の点検をしてください。
以下の対処を行っても直らない場合は、お買い上げ店にお問い合わせください。

症　状	原　因	対　処
電源が入らない。	主電源が入っていない。	本体後面のMAIN POWERスイッチを押してください。（16ページ）
電源は入るが、すぐ切れる。	プロジェクター内部に問題がある。	本体後面のLED表示部に表示されるエラーコードを確認して、ソニー業務用製品ご相談窓口にご連絡ください。
映像が出ない。	映像ミューティングかかっている。	MUTING PICキーを押してください。（24ページ）
	メニューが表示されるときは、外部入力信号または同期信号の入力が正しくない。	現在の入力信号と同期信号を入力情報メニューで確認して、正しく接続してください。（42ページ）
	無信号でメニューが表示されるときは、同期信号の接続が違っている。	信号設定メニューの「同期選択」の設定を確認し、必要であれば同期信号を正しく接続してください。（38ページ）
	無信号でメニューが表示されないときは、プロジェクター内部に問題がある。	ソニー業務用製品ご相談窓口にご連絡ください。
映像が暗い。	コントラストの設定が最小になっている。	CONTR＋キーを押して調整してください。（25ページ）
	クランプの設定が正しくない。	信号設定メニューの「クランプ」を正しく設定してください。（37ページ）
映像が乱れる。	入力信号の種類が正しく設定されていない。	初期設定1メニューの「入力A」、「入力B」または「入力C」で正しく設定してください。（39ページ）
画面上の表示が出ない	画面表示が出ない設定になっている。	STATUS OFFキーを押してください。（24ページ）
リモートコマンダーで動作しない。	デバイスインデックス番号が「00」になっている。	DEVICE INDEXスイッチを「00」以外の番号に設定してください。（53ページ）
INPUT Aが選べない。	INPUT Aがスイッチャーモードになっている。	SYS SETキーを押してください。（51ページ）
INPUT Bが選べない。	INPUT Bに装着したIFB-12/12AがOUTPUTモードになっている。	IFB-12/12Aのモード切り換えスイッチを「IN」にしてください。

本機の性能を保持するために

設置場所について

・前面および後面にある通風口は、内部の温度上昇を防ぐためのものです。風通しの悪い場所を避け、通風口をふさがないように設置してください。
・温度・湿度が非常に高い場所や温度が著しく低い場所、ほこりの多い場所での使用は避けてください。
・プロジェクターの設置してある室内の急激な温度変化は結露を引き起こし、故障の原因となりますので冷暖房にご注意ください。
・プロジェクターの内部には温度上昇を防ぐためにファンが取り付けられており、電源を入れると多少音を生じます。しかし、異常音が発生した場合にはお買い上げ店にご相談ください。

部屋の照明について

直射日光や室内灯などで直接スクリーンを照らさないでください。美しく見やすい画像にするために、以下の点を参考にしてください。

・集光形のダウンライトにする。
・蛍光灯のような散光照明にはメッシュを使用する。
・太陽の差し込む窓はカーテンやブラインドでさえぎる。
・光を反射する床や壁はカーペットや壁紙でおおう。

お手入れについて

・キャビネットやパネルの汚れは、柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときには、水でうすめた中性洗剤に柔らかい布をひたし、固くしぼってから汚れをふき取り、乾いた布で仕上げてください。なお、お手入れの際は必ず電源コードをコンセントから抜いてください。
・レンズに手を触れたり、固いもので傷をつけたりしないようにご注意ください。レンズの汚れがひどいときには、カメラ用のレンズクリーンペーパーやクリーナーをご使用ください。

結露について

結露とは、寒いところから急に暖かい場所へ持ち込んだとき、本体の内部に水滴がつくことです。結露が起きたときは、電源を入れたまま本機をそのまま約2時間放置しておいてください。

ブラウン管の焼き付きについて

ビデオディスクプレーヤーやコンピューターなどの静止画像を1時間以上映していると、ブラウン管が焼き付きを起こして画像がスクリーンに残ってしまうことがあります。やむを得ず静止画像を長時間映す場合は、なるべくコントラストを下げてご覧になることをおすすめします。また、異なった画面サイズで長時間ご使用になると、大きいほうの画面に小さいほうの画面の枠が焼き付いてしまうことがあります。（例：アスペクト比4:3でアスペクト比16:9のソフトを映した場合）投影する映像画面は同一サイズでご覧になることをおすすめします。

万一、焼き付きを起こした場合には、ブラウン管の交換が必要になります。この場合、保証期間中であっても有償交換となりますのでご注意ください。交換についてはお買い上げ店にご相談ください。

保証書とアフターサービス

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを →この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。
それでも具合の悪いときは →お買い上げ店にご相談ください。
保証期間中の修理は →保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。
保証期間経過後の修理は →修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

仕様

光学系

投影方式	3管、3レンズ、水平インライン方式
ブラウン管	9インチ高輝度着色液冷管、マグネフォーカス付き
レンズ	高性能HACCレンズ
投影画面	120インチ（対角線）標準 90インチ～300インチ（対角線）に調節可能
光出力	ANSI[1]基準測定時（色温度6500˚K） 350 lm (fH: 150 kHz, fV: 50 Hz) 280 lm (fH:15 kHz, fV: 60 Hz) ホワイトピーク：1300 lm 全白：500 lm

電気系

カラー方式	NTSC、PAL、SECAM、NTSC4.43、PAL-M自動切り換え
解像度	700 TV本（ビデオ入力時） 1100 TV本（ハイビジョン信号入力時） 2500 × 2000ドット（RGB入力、fH: 102 kHz、fV: 50 Hz時）
RGB入力	水平周波数　15 kHz ～ 150 kHz 垂直周波数　38 Hz ～ 150 Hz
テスト信号	各種テストパターン内蔵

入/出力

VIDEO	VIDEO IN：BNC型 (1)、コンポジットビデオ入力、1 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、負極性同期付 VIDEO OUT: BNC型 (1)、VIDEO IN端子のループスルー出力
S VIDEO	Y IN: BNC型 (1)、Y（輝度）信号入力、1 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、負極性同期付 C IN: BNC型 (1)、C（クロマ）信号入力、1 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、負極性同期付 S VIDEO IN：ミニDIN4ピン(1) Y（輝度）信号:1 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、負極性同期付 C（クロマ）信号: 0.286 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端（NTSC信号） 0.3 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端（PAL信号） S VIDEO OUT：ミニDIN4ピン(1)、S VIDEO IN端子のループスルー出力
INPUT-A	BNC型(5) アナログRGB/コンポーネント: R/R-Y：0.7 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、正極性 G：0.7 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、正極性 同期付きG/Y：1 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、負極性同期付 B/B-Y：0.7 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、正極性 SYNC/HD： 複合同期入力、0.6～8 Vp-p ハイインピーダンス、正負極性同期、 垂直同期幅：水平走査期間(2H)以上 VD： 垂直同期入力、0.6～8 Vp-p ハイインピーダンス、正負極性同期、 幅：水平走査期間(2H)以上 HDTV $Y/P_B/P_R$： Y：1 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、 3値同期：± 0.3 Vp-p、 2値同期：0.3 Vp-p P_B/P_R：0.35 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端 HDTV GBR： 同期付きG：1 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端、 3値同期：± 0.3 Vp-p、 2値同期：0.3 Vp-p B/R：0.7 Vp-p ± 2 dB、75 Ω終端

1) ANSI基準ルーメンは、American National Standard IT7.215.に定められた測定方法によります。

CONTROL S	IN/PLUG IN POWER:ステレオミニジャック (1)、5 Vp-p、プラグインパワー、DC 5 V　最大 60 mA出力 OUT:ステレオミニジャック (1) CONTROL S IN端子のループスルー出力
TRIGGER	ミニジャック (1) パワーオン時 : DC 12V 出力インピーダンス4.7 kΩ パワーオフ時 : 0V
ABL LINK	IN: ミニジャック (1) OUT: ミニジャック (1)
RS-232C/422A	Dサブ9ピン(1)
PJ COM	Dサブ9ピン(2)

一般

最大外形寸法	750×385.5×1,066 mm（幅 / 高さ / 奥行き）
質量	約110 kg
電源	AC100 V、50/60 Hz
消費電力	最大1,050 W（スタンバイモード時: 14 W）
動作温度	0 ℃ ～ ＋40℃
動作湿度	35 % ～ 85 %（結露しないこと）
保存温度	－20 ℃ ～ ＋60 ℃
保存湿度	10 % ～ 90 %
付属品	リモートコマンダーRM-PJ1001（1） 単3形（R6）乾電池（3） リモコンケーブル 15m（1） 電源コード（1） 変換プラグアダプター（1） レンズキャップ（3） PJ COM端子用ターミネーター（1） 取扱説明書（1） 保証書（1） ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内（1）
取得安全規格	VCCI クラスA

本機は「高調波ガイドライン適合品」です。

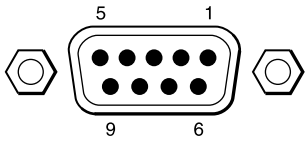
本機の仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

別売りアクセサリー

シグナルインターフェーススイッチャー　PC-3000
シグナルインターフェースユニット　IFU-1271J
プロジェクターサスペンションサポート　PSS-90
インターフェースボード　IFB-12/12A/20/21/40/50/1000
シグナルインターフェースケーブル　SIC-10/20A/20B/20C/21/22/23/24/24A/24B/25/26/26A
HD Dサブ15ピン－5BNCケーブル　SMF-400
HD Dサブ15ピン－HD Dサブ15ピンケーブル　SMF-401
9ピンリモートケーブル　RCC-5G/10G/30G（RS-232C/422A用）
100インチフラットスクリーン　VPS-100FH
120インチフラットスクリーン　VPS-120FH
100インチ電動フラットスクリーン　VPS-100FMJ
120インチ電動フラットスクリーン　VPS-120FMJ

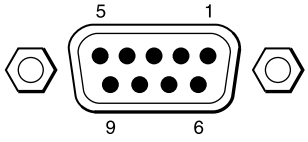
ピン配列

RS-232C/422A端子（Dサブ 9ピン、メス）



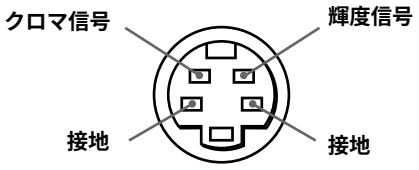
ピンNo.	信号		ピンNo.	信号	
1	GND	接地	6	GND	接地
2	$\overline{\text{TX}}$	$\overline{\text{受信}}$	7	TX	受信
3	RX	送信	8	$\overline{\text{RX}}$	$\overline{\text{送信}}$
4	GND	接地	9	GND	接地
5	未使用				

PJ COM端子（Dサブ 9ピン、メス）



ピンNo.	信号		ピンNo.	信号	
1	GND	接地	6	GND	接地
2	$\overline{\text{BUS BUSY}}$	ビジー	7	BUS BUSY	ビジー
3	TX/RX	受信/送信	8	$\overline{\text{TX/RX}}$	受信/送信
4	GND	接地	9	GND	接地
5	未使用				

S VIDEO端子（ミニDIN 4ピン）



索引

五十音順

あ行

アジャスター 14
「色あい」..... 34
「色温度設定」..... 37
「色の濃さ」..... 34
インデックス番号 53
ウォーミングアップ画面 23
映像だけ消す 24
「映像ミューティング」..... 39

か行

各部の名称と働き
　後面 16
　コントロールパネル 18
　前面 14
　リモートコマンダー 18
画質設定1メニュー 35
画質設定2メニュー 36
画質調整メニュー 33
画質を調整する 25
画像を映す 22
カバー
　コントロールパネルカバー 14
画面サイズの調整 28
「画面表示」..... 39
画面表示が出ないようにする 24
「カラー方式」..... 35
記憶 31
「クランプ」..... 37
クランプ位置の設定 37
「グループインデックス」..... 40、41、53
後面の名称と働き 16
「コムフィルター」..... 36
「コントラスト」..... 34
「コンポーネントフォーマット」..... 35

さ行

サイズ調整 28
シグナルインターフェーススイッチャー
　PC-3000 50
　PC-1271J 52
シグナルインターフェースボード
　IFB-12/12A 48
　IFB-40 52
シグナルインターフェースユニット
　IFU-1271J 47
シフト（位置）調整 28
「シャープネス」..... 34
仕様 59
使用上のご注意 57
初期設定1メニュー 39
初期設定2メニュー 40
信号設定メニュー 37
スクリーン
　スクリーンサイズ ..... 45、46
接続例
　映像機器を直接接続する 47
　シグナルインターフェーススイッチャーを使用する ..... 50、52
　複数のプロジェクターを直接接続する 48
　リモコンをプロジェクターに接続する . 21
「セットアップ」..... 35
設置基準穴 45
節電モード 41
設置例
　天井つり、フロント投影 46
　床置き、フロント投影 45
センタリング調整 26

た行

ダイナミックピクチャー 35
調整
　画質 25
　画面サイズ 28
　画面の輝度（クランプ位置の設定）.. 37
　シフト（位置）調整 28
　センタリング 26
　ブランキング 29
　レジストレーション 26
テストパターン 26
「デバイスインデックス」..... 40、41、53
電源コードの接続 10
電池の入れかた 21
「同期選択」..... 38
「同期ルート」..... 38
トラブル時の対処 56

な行

「入力A」..... 39
「入力C」..... 40
入力情報メニュー 42
「入力信号形態」..... 42
「入力B」..... 39
「入力メモリーNo.」..... 42

は行

ハンドルの使いかた、しまいかた 15
ハンドルリリースレバー 15
「ビデオメモリー」..... 33、42
「ビデオロック」..... 38
「表示言語」..... 41
標準の位置に戻す 29
標準の画質に戻す 25
標準のサイズに戻す 28
ピン配列 61
「ブライトネス」..... 34
ブランキング調整 29
プロジェクターサスペンションサポート PSS-90 46
プロユーザーモード 32
保証書とアフターサービス 58

ま行

メニュー
- 画質設定1 35
- 画質設定2 36
- 画質調整 33
- 初期設定1 39
- 初期設定2 40
- 信号設定 37
- セット情報 43
- 入力情報 42

メニュー操作 30

メニュー画面を消す 31

や行

ユーザーモード ..... 31、40

ら行

リセット
- 標準の位置に戻す 29
- 標準の画質に戻す 25
- 標準のサイズに戻す 28

リモコン受光部
- 後面リモコン受光部 16
- 前面リモコン受光部 14
- 「SIRCS受光部」 41

リモートコマンダー
- キーの名称と働き 18
- 電池の入れかた 21
- プロジェクターに接続する 21

レジストレーション調整 26

アルファベット順

BNCコネクターの接続のしかた 47

5BNCケーブル ..... 48、50

「D.ピクチャー」 35

「DRC」 36

「DRCレベル」 36

LED表示部 17

PJ COM IN/OUT端子 17

RS-232C/422A端子 17

RS-232C/RS-422A切り換えスイッチ 17

SIC-Mケーブル 52

「SIRCS受光部」 41

SYS SETキー 51

「Vシフト」 ..... 29、37

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35
ソニーマーケティング株式会社 情報システム営業本部　〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18

Printed in Japan

Sony online

http://www.world.sony.com/

「Sony online」は、インターネット上のソニーのエレクトロニクスとエンターテインメントのホームページです。

この説明書は再生紙を使用しています。